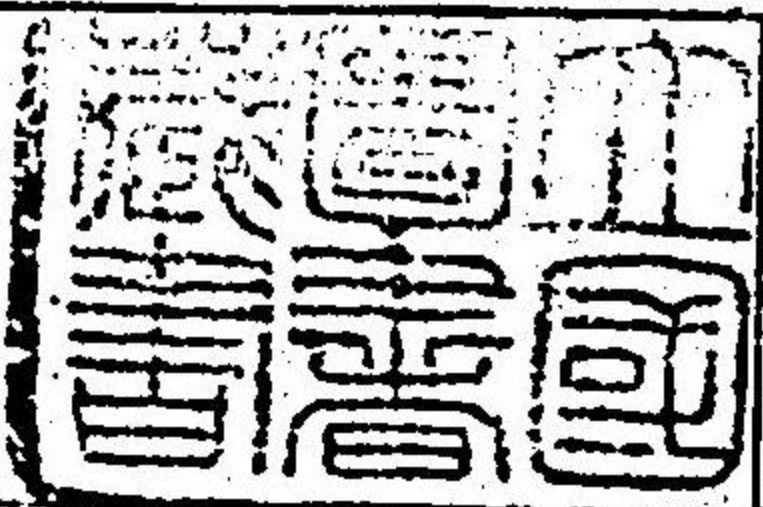


210272



校古今紀要卷四

重野成齋閣

川島棋坪編

後醍醐天皇

淺間山焚從弟ナリ○天明三年七月。淺間山焚ク。晦冥晝暗

ク。熱沙噴湧シテ。利根川ヲ塞ク○四年三月。佐野

政言意知ヲ殺ス田沼意知ヲ幕府ニ殺ス。意知若年寄タリ。權

ヲ恃ミ人ヲ慢ル。嘗テ政言ノ系譜ヲ借リテ。還サ

ス。政言忿恨シテ之ヲ刃ス。意知ハ意次ノ子ナリ

○是歲。陸奥饑ウ。伊達重村幕府ニ請ヒテ五年ヲ

仙臺通寶期シ。方鐵錢ヲ鑄。封内ニ行フ。文ヲ仙臺通寶ト曰

古今紀要卷四 光格

琉球饑ウ。○五年。九月。琉球饑ウ。幕府米萬俵金萬兩ヲ島

津重豪ニ貸シ之ヲ販ス。○六年。九月。征夷大將軍

家治薨ス。子ナシ。德川家齊一橋ヨリ入リテ職ス

意次ノ封ヲ削ル。○閏十月。家齊田沼意次ノ封ヲ削ル。初意次

二將軍ニ歷仕シ。奢侈聚斂至ラサル無シ。家治病

ムニ及ヒテ。頗其姦ヲ知ル。意次自安ンセス。病ト

稱シテ職ヲ辭ス。是ニ至リ。遺命ヲ以テ其封ヲ削

歲饑ウ。○七年。饑ウ。土民蜂起シテ。豪富ヲ掠ム。幕府吏

ヲ遣リテ之ヲ鎮撫ス。○六月。松平定信ヲ以テ老

定信ヲ老中ト為ス。定信明敏學ヲ好ミ。節儉自率キ。賢能ヲ

舉ケ。苞苴ヲ禁シ。弊政ヲ釐革ス。天下大ニ悅ノ

京師大火。八年。正月。京師大火。二條城番ノ僚屬石川甚四郎

建議ス。廩ヲ發キ罹災ノ民ヲ救ハント。城番幕府

ニ稟セント欲ス。甚四郎曰ク。命ヲ待タハ事ニ及

ハス。命ヲ矯ムルノ罪ハ。請フ自任セント。乃穀數

甚四郎ヲ大目付トス。千石ヲ出シテ之ヲ販ス。幕府甚四郎ヲ擢ケ。大目

付ト為シ。命シテ皇居造營ノ事ヲ幹セシム。○寛

蝦夷亂ル。政元年。五月。蝦夷ノ酋長松前ノ監吏及盛岡ノ商

賈ヲ殺ス。初商賈市ヲ久奈尻ニ開キテ。其利ヲ罔

ス。夷民怨望ス。酋長夷民ヲ率キテ。市場ヲ襲ヒ之

ヲ殲ス。幕府松前道廣ニ命シ。討チテ之ヲ平ク○
凶荒ニ備
九月。幕府諸侯ニ令シテ。穀粟ヲ積ミ。凶荒ニ備ヘ
シム○二年。正月。幕府令シテ奢侈ヲ禁シ。婦女衣

簪ノ華美ヲ禁ス○九月。皇居及上皇ノ宮ヲ修メ。
上古ノ制ニ復ス○是歲。幕府清和蘭交易ノ額ヲ

減ス。初清和蘭商船ノ來ル者。歲ニ數十隻ニ下ラ
ス。其金銀紅銅ヲ輸出スル極メテ夥シ。是ニ至リ。

清船ヲ減シテ十隻ト爲シ。蘭船ヲ一隻ト爲ス○
三年。十月。幕府醫學館ヲ江戸ニ置ク○四年。五月。

仙臺ノ人林子平ヲ禁錮ス。子平慷慨大志アリ。海
醫學館ヲ
置ク
子平ヲ錮
ス

國兵談三國通覽ヲ著ス。幕府以テ人心ヲ動スト
爲シ。命シテ其版ヲ焚キ之ヲ幽ス。下野ノ人蒲生
君平。亦慷慨學ヲ好ミ。遠識アリ。北邊警アルニ當
リテ。書ヲ幕府ニ上リ事ヲ論ス。報セス。二人共ニ
志ヲ齎シテ歿ス○五年。正月。前大納言中山愛親

正親町公明江戸ニ至ル。天皇生父典仁親王ニ太
上天皇ノ號ヲ上ラント欲ス。家齊詔ヲ奉セス。二

人東下シ。辨論シテ屈セス。家齊遂ニ二人ヲ責罰

ス○七月。幕府和學所ヲ江戸ニ置ク。檢校塙保已
一ヲシテ之ヲ掌ラシム。保已一幼ニシテ明ヲ失

和學所ヲ
設ク

家齊ニ脚
ヲ罰ス

君平遠識
アリ

博聞強記。人ニ過絶ス。編輯スル所群書類從アリ。○老中松平定信職ヲ辭ス。定信文武ノ才アリ。嘗テ古賀樸尾藤孝肇柴野邦彦等ヲ辟シテ幕府儒官ト爲シ。大ニ文教ヲ振興ス。又砲臺ヲ相模伊豆安房上總ニ築キテ。武備ヲ修ム。政績甚多シ。○九月。魯西亞人我漂民ヲ送リ。蝦夷ノ根室ニ來リ。互市ヲ請フ。許サス。○是歲。上野ノ人高山正之筑後ニ自殺ス。正之皇室ノ式微ヲ慨キ。武門ノ跋扈ヲ惡ミ。等持院ニ入り。足利尊氏ノ塑像ヲ鞭ツニ至ル。遂ニ諸國ヲ跋渉シテ。志士ヲ鼓舞ス。後ノ勤

定信政績多シ

正之自殺ス

尊氏ノ塑像ヲ鞭ツ

王ヲ唱フル者。率正之ヲ祖述ス。○十二年。五月。幕府渡邊胤大河内政壽ヲ蝦夷ニ遣リ。惠土呂府ヲ成ラシム。是ヨリ先。近藤守重ヲシテ蝦夷ヲ巡按セシム。時ニ魯西亞十字柱ヲ惠土呂府ニ建ツ。守重之ヲ抜キ。易フルニ我國標ヲ以テス。○享和元年。六月。出羽ノ民亂ヲ作ス。月ヲ踰エテ平ク。初米澤城主上杉治憲心ヲ治ニ用キ。儒士紀徳民ヲ聘シテ。惠政ヲ施ス。弟治廣亦能ク其志ヲ繼ク。故ニ隣境ノ民蜂起シテ。米澤ノ治ニ倣ハント請フ。肥後國主細川重賢亦堀平太ヲ舉ケテ政ヲ任ス。封

魯十字柱ヲ建ツ

出羽ノ民亂ヲ作ス

治憲徳民ヲ聘ス

重賢平太ヲ舉ク

魯艦惠土

内大ニ治マル。當時藩臬二氏ヲ以テ稱首ト為ス
 ○二年。正月。幕府箱館奉行ヲ置ク○文化元年。九
 月。魯西亞ノ兵艦我漂民ヲ送リ。長崎ニ來リ互市
 請フ。許サス○二年。九月。魯西亞ノ兵艦蝦夷ニ
 來リ。臚高柵ヲ焚キ。戊卒ヲ執ヘテ去ル。臚高柵ハ。
 江戸大火
 松前藩ノ置ク所ナリ○三年。三月。江戸大火。延焼
 二十八萬餘戸。焚死一千二百餘人。幕府救恤場ヲ
 設ケテ之ヲ賑ス○四年。三月。幕府松前章廣ノ封
 ヲ収メテ。之ヲ梁川ニ移シ。盛岡津輕二藩ニ命シ
 テ。箱館ヲ戍ラシム○四月。魯西亞ノ兵艦惠土呂

呂府ニ來ル

英艦長崎ニ來ル

府ニ來リ。名蘭穂柵ヲ焚キ。戊卒ヲ執ヘ。進ミテ舍
 那塞ヲ侵シ。器械ヲ掠メテ去ル。幕府檄ヲ東陞諸
 藩ニ傳ヘテ之ニ備ヘシム○十二月。會津仙臺二
 藩ニ命シ。兵ヲ發シテ蝦夷ヲ戍ラシメ。魯西亞ノ
 來寇ニ備フ。明年十一月ニ至リテ師ヲ班ス○五
 年。八月。英吉利ノ兵艦長崎ニ來リ。民家ヲ抄掠シ。
 遂ニ官廳ニ至リテ。糧牛薪水ヲ請フ。奉行松平康
 英檄ヲ肥筑二藩ニ傳ヘ。其兵艦ヲ焚カント欲ス。
 二藩ノ兵未至ラサルニ。已ニ逸シ去ル。康英自殺
 シテ罪ヲ謝ス○八年。三月。朝鮮來聘ス。家齊老中

210272

韓聘ヲ對馬ニ受ケ

小笠原忠固脇坂安董ヲ對馬ニ遣リテ聘ヲ受ケ
 シム。儒官林衡古賀樸及松崎復從フ。是ヨリ先聘
 使皆江戸ニ來ル。此ニ至リ、始メテ對馬ニ接待ス。
 後以テ例ト為ス。○五月、魯西亞ノ兵艦、蝦夷ノ利
 井尻ニ至ル。戊卒其上陸スル者數人ヲ虜ニス。○
 十年、九月、魯西亞ノ兵艦、箱館ノ壘ニ至リ、往歲入
 犯ノ罪ヲ謝シ、掠ムル所ノ器械ヲ致シ、俘虜ヲ還
 サント請フ。之ヲ許ス。北邊ノ騷擾、八年ニシテ始
 メテ平ク。○閏十一月、後櫻町上皇崩ス。○十二年、
 八月、小倉城主小笠原忠固ヲ責罰ス。初、其宰小笠

北邊始メテ平ク

忠固ヲ責罰ス

原出雲權ヲ擅ニス。群士憤怒シテ、亡命スル者多
 シ。忠固制スル能ハス。故ニ此譴アリ。○十四年、三
 月、天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位三十七年。皇太子
 立ツ。

家齊左大臣ト為リ
 家慶内大臣ト為ル

仁孝天皇ハ、光格帝ノ第四子ナリ。○文政四年、十
 一月、松前章廣ノ封ヲ復シテ、蝦夷ヲ鎮セシム。○
 五年、二月、大將軍家齊ヲ左大臣ニ拜シ、其子家慶
 ヲ内大臣ト為ス。家光左大臣ニ拜シ、ヨリ之ニ
 任スル者ナシ。世子内大臣ニ拜スルハ、鎌倉以來
 是ヲ始ト為ス。○七年、八月、英吉利ノ兵艦、浦賀及

英艦來ル常陸ノ大津ニ來リ。遂ニ薩摩ノ寶島ニ至リ。民家
 ヲ掠ム。藩兵擊テ之ヲ却ク。○十一年。七月。大風
 水。西海殊ニ甚シ。破屋五萬餘戶。溺死スル者一萬
 餘人。○十二年。三月。江戸大火。延燒十二萬戶。焚死
 スル者一千九百餘人。○天保二年。二月。幕府安治
 川ヲ濬フ。其土砂ヲ集メ。一阜ヲ河口ニ造ル。名ケ
 テ天保山ト曰フ。○五年。十二月。朝鮮饑ウ。幕府金
 萬兩ヲ宗義質ニ貸シテ之ヲ贍ス。是ヨリ先。米萬
 石ヲ輸リ。朝鮮ノ饑ヲ賑ス。○六年。九月。幕府當百
 錢ヲ鑄ル。時ニ國用漸乏シ。文政中。二分金ヲ鑄。小
 貨幣ヲ改
 鑄ス

安治川ヲ

朝鮮ノ飢
ヲ賑ス

貨幣ヲ改
鑄ス

判金ヲ改鑄シ。一銖銀ヲ行フ。後又二銖金ヲ造リ。
 五兩判金及一分銀ヲ鑄ル。此ヨリ貨幣ヲ改鑄ス
 ル毎ニ。其質轉惡シ。○是歲。幕府出石城主仙石久
 利ノ封ヲ削リ。其宰仙石親友ヲ誅ス。親友ハ久利
 ノ庶叔父ニシテ。久利ノ父久道ニ寵セララル。久利
 封ヲ襲クニ及ヒテ。尚幼ナリ。親友乃已子親定ヲ
 以テ久利ニ代ヘント欲シ。其黨ト謀リ。久道ヲ鳩
 シ。又客ヲ遣リ。久利ヲ江戸ノ邸ニ刺サシム。中ヲ
 ス。邸監神谷轉之ヲ憂ヒ。其難ヲ濟ハント欲シ。亡
 命シテ僧寺ニ隠ル。親友幕吏ニ請ヒ之ヲ捕フ。轉

親友ヲ誅
ス

親友ノ罪惡ヲ具シ之ヲ訴フ。乃久利ノ封ヲ削リ。

親友等十餘人ヲ誅ス○七年。九月。征夷大將軍家

齊職ヲ辭ス。家慶嗣ク○是歲。淫雨夏寒ク。五穀登

ラス。道殣相望ミ。死スル者數十萬人。陸奥出羽特

ニ甚シ。幕府倉廩ヲ發キ之ヲ賑ス○八年。二月。大

鹽後素亂ヲ作ス。後素大坂市廳ノ屬吏タリ。慷慨

學ヲ好ミ。頗名望アリ。去歲饑ウルヤ。家什書籍ヲ

鬻キ。窮民ヲ賑ス。是ニ至リ又饑ウ。奉行跡部良弼

ニ説キテ之ヲ救ハシム。良弼省セス。後素大ニ怒

リ。黨ヲ聚メテ良弼ヲ攻ントス。良弼城代土井利

家齊職ヲ辭ス

五穀登ラス

後素亂ヲ作ス

修學院ヲ修ム

位ト。兵ヲ發シテ之ヲ擊ツ。後素自殺シ。事平ク○

十一年。十一月。上皇崩ス。上皇聰明學ヲ好ミ。嘗テ

家齊ニ勅シテ。修學院ヲ修メシム。遜位ノ後。數之

ニ幸ス。謚ヲ上リテ光格天皇ト云フ。宇多帝謚ヲ

停メシヨリ。其禮擧ケサル者九百十一年。是ニ至

リ之ヲ復ス○十二年。正月。前征夷大將軍家齊薨

ス。家齊職ニ在ル五十年。太政大臣ニ陞ル。鎌倉以

來。大將軍太政大臣ヲ兼ヌル者。獨家齊ノミ。幕府

ノ盛。是ニ極マレリ○十三年。九月。曆法ヲ改ム。名

ケテ天保壬寅元曆ト云フ○十四年。四月。家慶日

天保曆ヲ行フ

家慶日光
廟ニ詣ス

光廟ニ詣ス。權中納言德川齊昭上書シテ之ヲ止メ。其資ヲ以テ海防ヲ嚴ニシ。外寇ニ備ヘンコト

印幡湖ヲ
疏鑿ス

ヲ請フ。省セス。○十一月。幕府印幡湖ヲ疏鑿シテ。江戸灣ニ通セントシ。諸藩ニ命シテ。其役ヲ助ケ

和蘭交市
ヲ勸ム

シム。物論囂然タリ。事成ラスシテ止ム。○弘化元年。三月。和蘭人長崎ニ來リ。西洋諸國ト同盟互市

江戸城火
アリ

スルヲ勸ム。○五月。江戸城火アリ。幕府諸藩ニ課シテ城ヲ營ム。碁博井上因碩上書シテ之ヲ諫ム。家慶爲ニ課金ヲ減ス。○幕府德川齊昭ヲ幽シ。其老臣戸田安敬藤田彪等ヲ禁錮ス。○二年。二月。老

忠邦職ヲ
免ス

中水野忠邦ヲ免ス。忠邦弊政ヲ釐革スルニ意アリ。而ルニ政令煩苛。威福已ニ由リ。人多ク之ヲ怨ム。是ニ至リ。官ヲ免シテ屏居セシム。尋キテ其封

學習院

ヲ山形ニ移ス。○十二月。家齊諸措紳ノ爲ニ。學舎ヲ京師ニ設ク。天皇名ヲ學習院ト賜フ。○三年。正月。天皇崩ス。天皇孝順。學ヲ好ミ。和歌ヲ善クス。在位二十九年。皇太子立ツ。

米艦來ル

孝明天皇ハ。仁孝帝ノ第四子ナリ。○弘化三年。閏五月。米利堅ノ兵艦浦賀ニ來リテ。通信互市ヲ請フ。許サス。○嘉永元年。十月。大將軍家慶ヲ左大臣

英艦下田ヲ掠ム

和蘭痘症ヲ傳フ
魯艦我漂民ヲ還ス

彼爾理國書ヲ呈ス

ニ任シ。從一位ニ叙ス。○二年。閏四月。英吉利ノ兵艦浦賀ニ來リ。轉シテ下田ニ入リ。民家ヲ掠ム。葦山代官江川英龍諭シテ之ヲ去ラシム。○是歲。和蘭人始メテ種痘ノ方ヲ傳フ。○五年。五月。魯西亞ノ兵艦下田ニ來リ。我漂民ヲ送リ歸ス。○六年。六月。米利堅ノ水師提督彼爾理浦賀ニ來ル。幕府列藩ニ令シ。伊豆相模安房上總ノ沿海ヲ戍ラシム。日ニ和戰ノ可否ヲ議ス。物情恟恟タリ。彼爾理國書ヲ呈シ。通信互市ヲ請フ。幕府答ヘテ曰ク。事體極メテ大カリ。輒辨スヘカラス。宜ク明年長崎ニ

福嘉靜國書ヲ呈ス

砲臺ヲ品川灣ニ築ク

秋帆火技ヲ授ク

來リ報ヲ待ツヘシト。物ヲ賜ヒ遣リ還ス。○征夷大將軍家慶薨ス。其子家定職ヲ襲ク。○七月。魯西亞ノ水師提督福嘉靜國書ヲ齎シテ。長崎ニ來リ。隣好ヲ修メ。疆域ヲ正シ。互市ヲ通セント請フ。幕府吏ヲ遣リ。依違之ニ答フ。○八月。幕府砲臺ヲ品川灣ニ築ク。歲ヲ踰エテ成ル。諸藩ヲシテ之ヲ戍ラシム。○幕府諸藩ノ火器ヲ齎シ。江戸ニ入ルヲ許シ。高島秋帆ニ命シテ。火技ヲ旗下ノ士ニ授ケシム。初秋帆長崎ニ在リ。砲術ヲ和蘭人ニ受ク。後事ヲ以テ禁錮セラル。是ニ至リ。釋シテ之ヲ用ウ

諸藩ニ大艦ヲ造ルヲ許ス

彼爾理前請ヲ申ス

○九月幕府諸藩ニ大艦ヲ造ルヲ許シ。兵艦十餘隻ヲ和蘭ヨリ買フ。○十一月幕府徳川齊昭ヲ起シテ政ニ參セシム。齊昭屏居スル久シ。天下其風來ヲ想望ス。是ニ至リ起チテ事ヲ視ル。○安政元年。正月。彼爾理兵艦ヲ率キ浦賀ニ來リ。前請ヲ申ス。幕府列藩ニ命シテ。京師江戸及諸道ノ要害ヲ戍リ。浦賀奉行井戸弘道及大學頭林健等ヲシテ之ニ接セシム。彼爾理強請レ止マズ。幕府其諭スヘカラサルヲ知り。遂ニ兵艦ヲ下田箱館長崎三港ニ泊シ。及其漂民ヲ撫シ。薪糧ヲ給スルヲ許ス。

幕府矩方貞吉啓ヲ因フ

○三月幕府長門ノ人吉田矩方澁木貞吉信濃ノ人佐久間啓ヲ因フ。初矩方兵ヲ啓ニ學ヒ。慷慨ニシテ大志アリ。海外ニ航シテ。事情ヲ察セント欲ス。會米利堅ノ兵艦來ル。矩方貞吉ト謀リ。密ニ附乗シテ其國ニ至ラント請フ。艦長聽カス。二人ヲ押シテ港吏ニ致ス。幕府國禁ヲ犯スヲ以テ。獄ニ下シ廉問ス。事啓ニ連ル。併セテ之ヲ囚フ。○四月大内災アリ。天皇神寶ヲ奉シテ。加茂ニ避ケ。尋キテ桂殿ヲ以テ行宮ト爲ス。○鍋島直正砲臺ヲ長崎ニ築ク。家定刀ヲ賜ヒ。以テ其勞ヲ賞ス。○七月。

直正砲臺ヲ築ク

和蘭英吉利幕府ニ上書シ。三港ニ碇泊センコトヲ請フ。之ヲ許ス。皆米利堅ノ例ノ如シ。○九月。魯西亞ノ兵艦大阪ニ來リ。書ヲ幕府ニ呈セント請フ。城代土屋寅直聽カス。轉シテ下田ニ至リ之ヲ請フ。幕府亦三港ニ碇泊スルヲ許ス。○十一月。關西地震。東南海嘯。幕府并伊直弼等ニ命シテ。大内ヲ護衛セシム。又和歌山及南海ノ諸藩ニ令シテ。砲臺ヲ築カシム。○二年。二月。家定東西蝦夷ノ地ヲ收メテ幕府ニ隸シ。伊達郡四萬石ヲ以テ松前崇廣ニ與フ。○三月。詔シテ梵鐘佛具ヲ

關西地震
東南海嘯

東西蝦夷
ヲ收ム

改鑄シ。火器ト爲サシム。果シ行ハレス。○米利堅ノ兵艦下田ニ來リテ。近海ヲ測量センコトヲ請フ。幕府許サス。諸藩ニ令シテ。益海防ヲ戒ム。○九月。大内成ル。車駕宮ニ還ル。○十月。幕府始メテ蝦夷ヲ拓キ。箱館奉行ニ命シ。夷民ヲ教ヘ。荒蕪ヲ闢カシム。○是月。江戸地大ニ震フ。死スル者十萬餘人。藤田彪。戸田忠敬亦死ス。忠敬深沈器畧多ク。彪慷慨學識アリ。時人之ヲ兩田ト稱ス。共ニ藩主齊昭ヲ輔ケテ。藩政ヲ更張ス。功績甚多シ。○三年。二月。幕府蕃書調所ヲ江戸ニ設ク。後開成所ト唱フ。

蝦夷ヲ開
拓ス

彪忠敬死
ス

蕃書調所
ヲ設ク

軍艦教授所ヲ設ク

砲臺ヲ攝津ニ築ク

家定外使ヲ延見ス外交ノ勅尤ヲ請フ

古賀増ヲシテ之ヲ掌ラシム○六月。幕府砲臺ヲ
堀浦ニ築ク○四年。四月。幕府軍艦教授所ヲ江戸
ニ設ケ。勝義邦ヲシテ之ヲ掌ラシム○幕府松平
定安松平頼胤ニ命シテ。砲臺ヲ攝津ニ築カシム
○十月。米利堅ノ公使哈爾理斯江戸ニ來ル。將軍
家定之ヲ延見シ。林健等ヲ京師ニ遣リ。狀ヲ奏シ
テ勅尤ヲ請ハシム。朝議報セス。是ヨリ先幕府ノ
外事ヲ奏スル。唯文書奏請ス。是ニ至リ。又老中堀
田正篤等ヲシテ。守内ノ形勢ヲ陳シ。大ニ舊制ヲ
變シ。交ヲ諸外國ニ結ハンコトヲ請ハシム○五

外國奉行ヲ置ク

井伊直弼大老タリ

年。正月。幕府練兵所ヲ江戸ニ設ク○二月。幕府外
國奉行ヲ置ク○三月。堀田正篤ニ勅シテ曰ク。米
利堅ノ要請ハ。國家安危ノ係ル所。輕シク決スヘ
カラス。三家及列藩ト商議シ。處置宜シキヲ得テ。
後ニ奏セヨト○四月。幕府井伊直弼ヲ以テ大老
ト爲ス○六月。幕府互市ヲ米利堅ニ許ス。是ヨリ
先哈爾理斯屢訂約ヲ促ス。正篤還ルニ及ヒテ。勅
尤ヲ得ス。哈爾理斯曰ク。今ヤ英佛清ニ勝チ。將ニ
貴國ニ請フ所アラントス。貴國若速ニ我ニ聽キ。
條約ヲ定メハ。我能ク二國ニ諭シテ。無事ヲ保タ

外國ト假條約ヲ定ム

ト。幕府乃倉卒約ヲ定メ。稱シテ假條約ト曰ヒ。之ヲ京師ニ奏ス。物議囂然タリ。○七月。將軍家定

家定病篤

病篤シ。德川家茂ヲ紀伊ニ迎ヘテ嗣ト為ス。初德

川慶勝松平慶永等議ス。將軍子ナク。嗣君未定マ

慶喜與望アリ

ラス。德川齊昭ノ子慶喜。年長シテ興望アリ。宜シ

ク嗣ト為スヘシト。共ニ家定ニ謁シ之ヲ決セン

トス。直弼深ク齊昭ヲ忌ム。因リテ衆議ヲ排シ。家

茂ヲ迎フ。時ニ年甫メテ十二。○幕府和蘭ノ舊約

ヲ改修シ。魯西亞英吉利ト同シク。假條約ヲ交換

ス。尋キテ又佛蘭西ニ許ス。皆米利堅ノ例ノ如シ

虎列刺病行ハル

○八月。征夷大將軍家定薨ス。家茂職ヲ襲ク。○秋。大ニ疫ス。朝瀉夕死。諸藥驗ナシ。是ヲ虎列刺病ト稱ス。江戸死スル者。二萬八千餘人。○十月。幕府大

幕府黨獄ヲ起ス

ニ黨獄ヲ起ス。初幕府ノ行フ所。常ニ朝旨ト牴牾ス。是ニ於キテ。尊王攘夷ノ説大ニ起ル。水戸ノ人

安島信立。鮎澤國維。鵜飼知明。越前ノ人。橋本紀等

密勅ヲ齊昭ニ賜フ

相議シ。奏請スル所アリ。天皇密勅ヲ德川齊昭ニ賜ヒ。幕吏違勅ノ罪ヲ正シ。尾張水戸越前諸藩ヲシテ。心ヲ協セ以テ朝廷ヲ翊戴シ。幕府ヲ輔翼スルヲ畫ラシム。是ニ至リ。老中間部詮勝京師ニ入

リ。信立國維。知明紀。及賴醇梅田義質等ヲ捕ヘ。江
戸ニ檻致ス。又左大臣近衛忠熙右大臣鷹司輔熙
内大臣三條實萬等ニ逼リテ屏居セシメ。遂ニ齊
昭ヲ禁錮シ。勅書ヲ奉還セシメ。其子慶篤慶喜及
山内豐信太田道淳ヲ幽シ。信立國維知明紀醇義
質等ヲ殺ス。其餘或ハ流シ。或ハ禁錮ス。尋キテ吉
田矩方ヲ殺ス。天下目ヲ側ム。○萬延元年。正月。幕
府始メテ修信使ヲ米利堅ニ遣ル。村垣範正新見
正興正使タリ。小栗忠順監察タリ。○三月。水戸ノ
人佐野光明等。井伊直弼ヲ途ニ殺ス。初直弼使ヲ

幕府使ヲ
米利堅ニ
遣ル

櫻田ノ變。水戸ニ遣リ。勅書ヲ奉還セシム。藩士憤怒ス。齊昭
書ヲ下シテ之ヲ諭ス。光明等服セス。遂ニ薩摩ノ
人有村兼清ト謀リ。直弼ヲ櫻田門外ニ要撃シテ
之ヲ殺ス。○六月。通商ヲ葡萄牙ニ許ス。○八月。前
齊昭薨ス。權中納言德川齊昭薨ス。齊昭英明果毅ニシテ。王
室ヲ尊ヒ。國體ヲ重シシ。學校ヲ興シ。軍旅ヲ治メ。
藩政ヲ一變ス。遂ニ幕吏ノ忌ム所ト爲リ。之ニ坐
シテ屏居ス。薨スルニ及ヒテ。人之ヲ惜ム。○十一
月。外國奉行堀利熙自殺ス。初井伊直弼ノ死スル
ヤ。中外目ヲ刮リ。弊政ヲ一洗スルヲ俟ツ。老中安

利熙自殺
ス

藤信正革メス。利熙屢之ヲ諫ム。聽カス。一日。會議ニ因リテ。信正ヲ面折シ。家ニ歸リテ自殺ス。○十
 二月。天皇内帑ヲ發シテ。山城ノ窮民ヲ賑ス。○文
 久元年。二月。水戸亡命ノ士長岡ニ集リ。聲言シテ
 曰ク。齊昭ノ遺志ヲ奉シ。齊繼ノ舉ヲ行フト。諸藩
 脱籍ノ徒。競ヒテ之ニ應シ。將ニ横濱ヲ襲ハント
 ス。幕府水戸ニ命シテ之ヲ捕ヘシメ。諸藩ニ令シ
 テ要津ヲ扼シ。益洋館ノ警備ヲ嚴ニス。○魯西亞
 ノ兵艦對馬ニ來リ。居民ヲ凌暴ス。宗義和幕府ニ
 訴ヘ。其亡狀ヲ陳ス。幕府小栗忠順等ヲ遣リ。諭シ

内帑ヲ發
 シテ窮民
 ヲ賑ス
 水戸亡命
 ノ士長岡
 ニ集ル

魯西亞
 兵艦對馬
 ニ來ル

家茂ニ備テ之ヲ去ラシム。○三月。幕府鹽谷世弘ヲ辟シ。翌
 年。又安井仲平ヲ辟ス。二人經學文章ヲ以テ著ル

○五月。水戸亡命ノ士有賀重信等潛ニ高輪ニ入
 リ。東禪寺ヲ襲ヒ。英吉利人ヲ殺ス。英吉利人此ヨ

リ隊卒ヲ横濱ニ置キ。以テ自衛ル。佛蘭西人亦之
 ニ倣フ。○七月。英吉利ノ兵艦江戸灣ヲ測量セン
 ト請フ。幕府之ヲ許ス。○十一月。徳川家茂ノ請ニ
 由リ。皇妹親子内親王ヲ登降セシム。○二年。正月。

家茂皇妹
 ニ尚ス
 下野ノ人河野通植河本正安等。老中安藤信正ヲ
 坂下門ニ要撃シ之ヲ傷ツク。從士カメ拒ク。其徒

坂下門ノ
 變

六人皆鬪死ス。各一書ヲ懷ニシ。題シテ斬姦趣意書ト曰フ。幕府其黨ヲ索ム。坐スル者多シ。大橋正順亦捕ヘラル。正順嘗テ關邪小言ヲ著シ。邪説ヲ斥ク。一時傳誦ス。○四月。詔シテ島津久光毛利敬親等ヲ關下ニ召ス。初久光時事紛亂。朝旨幕議ト齟齬スルヲ憂ヒ。之ヲ救正スルニ意アリ。將ニ江戸ニ赴カントシテ。先京師ニ朝ス。時ニ福岡ノ人平野國臣。出羽ノ人清川正明等數百人。大阪ニ會シ。久光ヲ要シテ。幕府ヲ伐タント欲シ。伏見ニ至ル。朝廷久光ニ詔シテ之ヲ鎮撫セシム。久光乃從

國臣正明
大阪ニ會ス

久光敬親
ヲ關下ニ召ス

士大山綱良等ヲ遣リテ之ヲ止ム。聽カス。綱良等格鬪シテ數人ヲ殺ス。浪士解散ス。敬親嘗テ幕府ニ建議シ。入朝シテ大ニ列藩ヲ會シ。國是ヲ定ムルヲ勸ム。朝廷之ヲ嘉シ。遂ニ久光ト共ニ召シテ京師ヲ宿衛セシム。○六月。左衛門督大原重德東下ス。久光之ニ從フ。重德勅ヲ宣シテ曰ク。將軍宜ク諸侯ヲ率キテ入朝シ。内外ノ機宜ヲ議定スヘシ。又宜シク豐臣秀吉ノ故事ニ據リ。五大藩ヲ選ヒ。五大老ト爲シ。國政ヲ諮詢スヘシ。又德川慶喜ヲ舉ケテ。幕府ヲ翼ケ。松平慶永ヲ大老ニ任シ。協

浪士解散
ス

重德東下
ス

慶喜ヲ起
シ慶永ヲ
興ノ

同シテ中外ノ政ヲ行ハシムヘシト。家茂詔ヲ奉
 ス。○七月。家茂慶喜ヲ起シ。將軍輔佐ト為シ。慶永
 ヲ舉ケテ政事總裁ト為ス。因リテ二人相議シ。諸
 侯會同ノ期ヲ簡ニシ。且其妻子ノ國ニ就クヲ許
 ス。是ニ於キテ。江戸ノ繁華頓ニ減ス。○八月。關白
 九條尚忠ヲ黜ケ。内大臣久我建通少將千種有文
 少將岩倉具視中務大夫富小路敬直ノ官ヲ停メ。
 之ヲ禁錮ス。○閏八月。幕府奏シテ。京師守護職ヲ
 置キ。松平容保ヲ以テ之ニ充テ。尋キテ松平定敬
 ヲ以テ副ト為ス。○十月。中納言三條實美少將姊

江戸繁華
 頓ニ減ス

京師守護
 職ヲ置ク

實美公知
 東下ス

小路公知詔ヲ奉シテ東下ス。山内豐範從テ。實美
 勅ヲ宣シテ曰ク。攘夷ノ宸旨。終始渝ラス。宜シク
 速ニ策ヲ決シ。其期ヲ奏聞シ。親兵ヲ樹テ。近畿ヲ
 守衛シ。其兵食ハ列藩ニ徵スヘシト。家茂詔ヲ奉
 ス。○十一月。幕府故大老井伊直弼及老中堀田正
 篤間部詮勝安藤信正等ヲ追罰シ。或ハ封ヲ削リ。
 或ハ禁錮スル。各差アリ。安島信立及吉田矩方賴
 醇等。既ニ死スル者ハ罪名ヲ削リ。竄放セララル。
 者ハ之ヲ赦ス。皆朝旨ヲ奉スルナリ。○是歲。幕府
 和蘭ニ囑シテ。兵艦ヲ造ラシメ。榎本武揚赤松則

幕府老職
 ヲ追罰ス

和蘭ニ囑
 シテ軍艦
 ヲ造ル

正ヲ學習
院ニ賀ス

家茂入朝ニ參セシム

足利氏ノ
塑像ヲ梟ス
天皇加茂社ニ幸ス
行幸ス

良等ヲ遣リ。就キテ海軍術ヲ學ハシム。數年ニシテ還ル。○三年。正月。在京ノ諸藩。正ヲ學習院ニ賀ス。○二月。青蓮院朝彦親王ニ勅シ。還俗シテ機務ス。是ヨリ先。慶喜慶永先京師ニ入ル。時ニ尊王攘夷ノ說大ニ起リ。刺客京師ニ横行シ。幕府制スル能ハス。大庭機師岡正胤。小室信夫等。等持院ニ入リ。足利尊氏義詮義滿ノ塑像ヲ斫リテ。其首ヲ三條磧ニ梟スニ至ル。○天皇加茂社ニ幸ス。將軍家茂諸侯ヲ率テ扈從ス。是ヨリ先。毛利敬親奏請

慶永職ヲ
辭ス

天皇男山
ニ行幸ス

幕府攘夷ノ期ヲ定ム

ス。行幸ノ典ヲ舉ケ。親征ノ端ヲ開カント。故ニ此舉アリ。○政事總裁松平慶永職ヲ辭ス。初浪士等慶永ニ逼リ。攘夷ノ期ヲ促ス。慶永之ヲ病ミ。職ヲ辭ス。未タ允サレズ。私ニ國ニ就ク。幕府譴責シテ之ヲ幽ス。島津久光亦國ニ還ル。○四月。天皇男山ニ幸ス。將ニ八幡社前ニ就キテ。攘夷ノ節刀ヲ將軍家茂ニ賜ハントス。家茂疾作ルト稱シ之ヲ避ク。是ニ於キテ。浪士憤激シ。天皇ノ親征ヲ請フ。朝廷之ヲ慰藉ス。○幕府令ヲ列藩ニ下シ。五月十日ヲ以テ攘夷ノ期ト爲ス。○五月。幕府償銀五十萬元

幕府償銀
ヲ英ニ輸
ス

ヲ英吉利ニ輸ス。是ヨリ先。島津久光ノ天使ニ從
ヒテ還ルヤ。途生麥村ヲ過ク。會英吉利人久光ノ
前驅ヲ衝ク。從士怒リ之ヲ斬ル。英吉利ノ兵艦來
リ詰リテ曰ク。島津氏ノ士。我士官ヲ殺ス。償フニ
銀五十萬元ヲ以テセヨ。別ニ三萬元ヲ島津氏ニ
取リテ。死者ノ妻孥ニ付セント。幕府之ヲ京師ニ
報ス。往復ノ間。已ニ月餘ヲ歷。英吉利ノ兵艦益逼
ル。是ニ至リ。遂ニ五十萬元ヲ輸ス。事乃平ク。○毛
利敬親米利堅ノ兵艦ヲ赤馬關ニ砲撃ス。雨夜暗
黒。兵艦驚キ走ル。既ニシテ米利堅和蘭佛蘭西共

長人米艦
ヲ擊ッ

英人償銀
ヲ鹿兒島
ニ求ム

ニ兵艦ヲ進メテ。砲臺ヲ砲撃ス。我兵利アラス。○
德川家茂江戸ニ還ル。○七月。英吉利ノ兵艦鹿兒
島ニ來リ。償銀三萬元ヲ求ム。應セス。兵艦猝ニ櫻
島ヲ襲ヒ。又海岸ヲ砲撃ス。烟焰天ニ漲ル。我兵力
拒シテ之ヲ卻ク。既ニシテ英人再舉ヲ圖ル。薩人
金ヲ幕府ニ借リテ之ヲ償フ。○八月。詔シテ大和
行幸ヲ止メ。長藩ノ宿衛ヲ解ク。是ヨリ先。長藩類
ニ親征ヲ促シ。浪士亦大和ニ行幸セント請フ。朝
議之ヲ納ル。廷臣之ヲ沮ム者アリ。是ニ至リ。中川
宮急ニ松平容保等ヲ召シ。長藩ノ宿衛ヲ解キ。在

長藩ノ宿
衛ヲ解ク

七卿長門
ニ奔ル

藤本真金
等兵ヲ大
和ニ起ス
五條代官
ヲ殺ス

京諸侯ヲ以テ之ニ代ヘ。過ヲ中納言三條實美等
ニ歸シ。其朝參ヲ停ム。長人分疏スレトモ。聽カス。
長人乃實美ノ邸ニ集リ。兵ヲ收メテ國ニ還ル。是
ニ於キテ。實美及三條西季知東久世通禧壬生基
修四條隆訶錦小路賴德澤宣嘉亦相率キテ長門
ニ奔ル。乃其官爵ヲ削リ。長人ノ京師ニ入ルヲ禁
シ。遂ニ大和行幸ヲ止ム。○藤本真金松本衡吉村
寅等。大納言中山忠能ノ子忠光ヲ擁シテ。兵ヲ大
和ニ起ス。初大和行幸ノ議決スルヤ。真金等竊ニ
大和ニ入り。兵ヲ擧ケ五條代官鈴木源内ヲ殺シ。

諸軍天河
ノ險ヲ拔

遂ニ高取城ヲ攻ム。城主植村家保擊チテ之ヲ卻
ク。既ニレテ朝議ノ變スルヲ聞キ。天河ノ險ニ據
ル。朝議和歌山津彦根諸藩ニ命シテ之ヲ討タレ
ム。○九月。和歌山ノ部將水野孟義真金等ヲ攻メ
テ利アラズ。津ノ部將藤堂良規亦敗ル。彦根ノ兵
之ヲ援ク。良規反戦シ。追ヒテ十津川ニ至ル。敵兵
夜彦根ノ營ヲ襲フ。營兵多ク死ス。既ニレテ津藩
攻メテ天河ノ險ヲ拔ク。和歌山彦根諸藩兵ヲ分
チテ追撃ス。真金等事ノ成ラサルヲ知リ。奮戦シ
テ死ス。忠光逃レテ大坂ニ至リ。毛利氏ノ邸ニ依

忠光長門
ニ奔ル

國臣等兵
ヲ起ス

ル。穴戸真徹白根多助扶ケテ長門ニ奔ラシム。餘
ハ皆捕ヘラル。○十月。平野國臣美玉三平等澤宜
嘉ヲ推シテ主ト為シ。兵ヲ起シテ但馬ニ據ル。初
國臣學習院ニ督長タリ。去リテ長門ニ赴キ。宜嘉
ト謀リテ。但馬ニ至リ。聲言シテ曰ク。松平容保ヲ
討テ。闕ヲ叩キテ。宥ヲ伸フト。土兵聚ル者甚多シ。
幕府乃出石豐岡姫路諸藩ニ命シテ之ヲ討タシ
ム。兵未至ラス。宜嘉軍潰エ。再長門ニ走ル。三平妙
見山ニ據リ。奮戦シテ死ス。國臣捕ニ就キ。遂ニ斬
ラル。○詔シテ島津久光ヲ召ス。久光京師ニ至リ。

宜嘉長門
ニ走ル

久光時弊
ヲ論ス

幕府使ヲ
外國ニ遣
リ鎖港ノ
事ヲ議セ
シム

上書シテ時弊ヲ論シ。家茂慶喜慶永等ヲ召シテ。
共ニ事ヲ議セント請フ。尋キテ詔シテ曰ク。鎖港
ノ舉。一ニ幕府ニ委ヌ。列藩其指麾ヲ待テ事ニ從
ヘ。妄舉スル勿レト。是ニ於キテ。攘夷ヲ唱フル者
真木保臣阪下龍馬等。相率キテ長門ニ走ル。○十
一月。幕府池田長發等ヲ英吉利佛蘭西諸國ニ遣
リ。鎖港ノ事ヲ議セシム。長發等先佛蘭西ニ至リ。
國力ノ熾盛。交際ノ親密ナルヲ觀。敢テ發セス。明
年。還リテ事情ヲ陳ス。幕府使命ヲ辱ムルヲ責メ。
其官祿ヲ削ル。○十二月。長門ノ人井原親章等伏

長人薩艦
ヲ撃ツ

見ニ至リ。書ヲ齎シ京師ニ入リテ之ヲ奏セント
 請フ。朝議許サス。○薩藩ノ兵艦赤馬關ヲ過ク。長
 州ノ兵外國艦ト為シ。砲撃シテ之ヲ沈ム。薩藩大
 ニ怒リ。之ヲ詰ラント欲ス。幕府慰止ス。初薩長二
 藩闕下ニ周旋シ。威望角立ス。長藩ノ宿衛ヲ罷ム
 ルニ及ヒ薩藩威望獨隆ナリ。是ニ由リテ。二藩交
 惡シ。○元治元年。正月。徳川家茂入朝ス。詔シテ右
 大臣ニ任シ。從一位ニ叙ス。○三月。徳川慶喜ヲ以
 テ禁内守衛攝海防禦都督ト為シ。將軍輔佐ヲ罷
 ム。○四月。家茂ニ詔シテ曰ク。攘夷ノ議變スル勿

將軍再入
朝ス

新法十八
條

レ。海防ノ策怠ル勿レ。實美敬親ノ事。一切之ヲ委
 任ス。當ニ處分宜キニ適スヘシト。家茂乃新法十
 八條ヲ奏シ。以テ尊崇ノ意ヲ表ス。其大ナル者。曰
 ク。將軍ノ拜叙。必親入朝シテ恩ヲ謝セン。諸侯ノ
 繼續モ亦然リ。西國諸侯ノ江戸ニ往來スル者。必
 先京師ニ朝セン。○五月。家茂江戸ニ還ル。○水戸
 ノ藤田黨結城黨。常野ノ間ニ相攻ム。幕府諸藩ニ
 命シテ。藤田黨ヲ討タシム。初齊昭藤田彪ヲ擢ケ
 テ。老臣結城寅壽ヲ黜ク。寅壽之ヲ啣シ。幕府ニ譖
 シ。齊昭彪等ヲ幽セシム。寅壽復起チテ事ヲ用ウ。

水戸ノ兩
黨相攻ム

時人結城等ヲ奸黨ト曰ヒ。藤田等ヲ正黨ト稱ス。既ニシテ齊昭彪ト皆亡シ。奸黨竟ニ正黨ヲ排陥ス。藩主慶篤制スル能ハス。彪ノ子信及田丸直諒等之ヲ憤リ。齊昭尊攘ノ遺志ヲ繼クト稱シ。兵ヲ率キテ筑波山ニ據ル。奸黨市川弘美等援ヲ幕府ニ請ヒ之ヲ攻ム。正黨怒リテ慶篤ニ訴ヘント欲シ。脱シテ小金驛ニ至ル。時ニ武田正生江戸ニ在リ。兩黨ヲ鎮撫セント請フ。幕府之ヲ許シ。其支藩松平頼徳ト偕ニセシム。正生乃正黨ノ小金驛ニ在ル者ヲ率キ。將ニ水戸ニ入ラントス。奸黨之ヲ

正黨筑波山ニ據ル

正生兩黨ヲ鎮撫セント請フ

要撃シ。頼徳ヲ囚フ。信等之ヲ聞キ。正生ノ軍ニ投シ。那珂港ニ據リ。幕軍ト戦フ。既ニシテ糧盡キ。支フル能ハス。京師ニ入リテ分疏セント欲シ。殘兵ヲ率キテ中山道ヨリ美濃ニ至ル。大坂ノ兵險ヲ扼ス。轉シテ海津ニ至リ。金澤藩ノ兵營ニ投シ。京師ニ奏シテ。賊名ヲ除カンコトヲ請フ。幕府命シテ之ヲ諸藩ニ分チ囚フ。明年。二月。遂ニ敦賀ニ斬ル。後四年。正黨志ヲ得テ。悉ク奸黨ヲ誅ス。○七月。長門ノ人福原元佃國司親相益田親施等京師ヲ犯ス。官軍撃チテ之ヲ卻ク。初元佃親相等ト途ヲ異

奸黨頼徳ヲ囚フ

長藩京師ヲ犯ス

ニシ。江戸ニ至リテ謀ル所アラントス。藩人其主ノ譴ヲ蒙ムルヲ憤リ。元憫ヲ擁シテ。肯テ遣ラス。曰ク吾輩屢主ノ宥ヲ許フ。朝廷省セス。君側ノ姦ヲ除クニ非サレハ。事為スヘカラスト。元憫之ニ從ヒ。先伏見ニ至リ。兵ヲ分チテ嵯峨山崎ニ屯ス。毛利元徳之ニ繼ク。乃上疏シテ七卿ノ官爵ヲ復シ。其主ノ入朝ヲ許サンコトヲ請フ。聽カス。長人三所ノ兵ヲ率キ。松平容保ヲ花圃ニ撃タント欲シ。大ニ坂町蛤下立賣ノ三門ニ戰フ。薩兵容保ヲ援ケテ。大ニ之ヲ破ル。久坂通武來島政久等敗レ

孝允京師ニ潜伏ス

米蘭英佛赤馬關ニ寇ス

赤馬關償銀

幕府長藩ヲ討ツ

死ス。真木保臣退キテ。天王山ニ自殺ス。餘兵皆西ニ走ル。獨木戸孝允京師ニ潜伏ス。元徳備前ニ至リ。敗ヲ聞キテ還ル。是ニ於キテ。敬親元徳ノ官爵ヲ削リ。征討ノ議起ル。○八月。米利堅和蘭英吉利佛蘭西ノ兵艦赤馬關ニ寇ス。長人之下戰フ三日。利アラス。既ニレテ東兵國境ニ逼ル。長人乃四國ト和ス。四國幕府ニ逼リテ。償銀三百萬元ヲ出サシム。世之ヲ赤馬關償銀ト稱ス。○十一月。家茂徳川慶勝ヲ以テ總督ト爲シ。二十餘藩ノ兵ヲ徵シ。道ヲ分チテ毛利氏ヲ討ツ。敬親元徳萩城ニ屏キ。

春風有朋
兵ヲ起ス

幕府再長
藩ヲ討ツ

元間等ヲ殺シ。以テ罪ヲ謝シ。實美等ヲ大宰府ニ移ス。事已ムヲ得タリ。○慶應元年。正月。高杉春風山縣有朋等兵ヲ赤馬關ニ起ス。初長藩ノ元間等ヲ殺スヤ。春風等當路ノ人ヲ目シテ。俗論黨ト稱シ。兵ヲ募リテ之ヲ攻ム。春風嘗テ奇兵隊ニ長タリ。故ヲ以テ響應スル者數百人。戰ヒテ俗論黨ヲ破リ。進ミテ萩城ニ入リ。其主ヲ奉シテ山口ニ據ル。時ニ薩藩ノ論一變シ。西郷隆盛黒田清隆等ヲ長藩ニ遣シテ好ヲ通ス。○五月。家茂令ヲ下シ。再長藩ヲ討ツ。徳川慶勝書ヲ以テ之ヲ諫ム。聽カス。

家茂入朝
ス

朝廷外交
ヲ許ス

勝義邦亦其不可ヲ陳ス。執政怒リテ義邦ヲ黜ク。○閏五月。家茂入朝。尋キテ大坂城ニ居リ。軍事ヲ指揮ス。徳川茂徳ヲ以テ總督ト為シ。牙營ヲ廣島ニ置キ。長藩ノ罪ヲ聲シ。其封ヲ削ラント欲ス。長藩穴戸璣楫取素彦ヲシテ廣島ニ至リ。之ヲ辯解セシム。茂徳聽カスシテ二人ヲ囚フ。二人屈セス。○十月。朝廷始メテ外交ヲ許ス。初幕府ノ外交ヲ修ムルヤ。假ニ三港ヲ開キ。漸次他港ニ及ホスヲ約ス。是ニ至リ。兵庫開港ノ期近シ。英吉利佛蘭西米利堅和蘭諸國迫リテ止マス。家茂屢上言シ。

勅許ヲ請フ。朝議乃橫濱箱館長崎ヲ許シ。未、兵庫

ヲ允サス。○二年。六月。東軍大舉シテ長藩ヲ伐ツ。

東軍利ア
ラス

連戦利アラス。七月。長藩兵ヲ分チテ濱田ヲ抜キ。

石見ヲ畧シ。又小倉ヲ擊ツ。鎮將小笠原長行先遁

家茂大坂
ニ薨ス

ル。○八月。征夷大將軍德川家茂大坂ニ薨ス。東軍

益沮喪シ。引キテ大坂ニ遠ル。○九月。德川慶喜ヲ

慶喜征夷
大將軍タ

征夷大將軍ニ拜シ。詔シテ討長ノ兵ヲ弭メシム。

幕府乃勝義邦ヲ起シテ。長藩ニ遣シ。詔旨ヲ傳ヘ

シム。長藩兵ヲ收ム。是ヨリ大藩復幕府ノ節度ヲ

奉セス。權勢日ニ衰フ。○十二月。幕府德川昭武ヲ

佛蘭西ニ遣ル。澁澤榮一等從フ。佛蘭西萬國博覽

天皇崩ス

會ヲ開クヲ以テナリ。○天皇崩ス。天皇國家ノ安

危ヲ以テ憂ト為シ。宵旰精ヲ勵マス。不幸ニシテ

阼ヲ短クス。天下之ヲ惜ム。在位二十年。皇子睦仁

親王立ツ。

今上天皇ハ。孝明帝ノ第一子ニシテ。母ハ從一位

中山忠能ノ女ナリ。三年。正月。踐阼ス。年甫メテ十

慶喜政權
ヲ奉還ス

六ナリ。○十月。征夷大將軍德川慶喜上表シテ。政

權ヲ奉還セント請フ。之ヲ聽ス。是ヨリ先。山内豐

信書ヲ以テ慶喜ニ勸メ。政權ヲ奉還セシム。慶喜

諸藩ヲ會シ之ヲ諮詢ス。薩藩小松清廉土藩後藤
玄煒等之ヲ贊シ。議遂ニ決ス。家康征夷府ヲ開キ
シヨリ。是ニ至ル十五世。二百六十五年○十二月。
兵庫港及大坂互市場ヲ開ク○三條實美毛利敬
親等ノ官爵ヲ復シ。其入京ヲ許シ。攝政關白征夷
大將軍及議奏傳奏守護職所司代等ヲ廢シ。新ニ
總裁議定參與ヲ置ク。乃有栖川熾仁親王ヲ以テ
總裁ト爲シ。中山忠能正親町三條實愛中御門經
之島津忠義山内豐信等ヲ議定ト爲シ。岩倉具視
橋本實梁岩下方平西鄉隆盛大久保利通田中不

新ニ三職
ヲ置ク

慶喜京師
ヲ犯ス

二麻呂後藤玄煒等ヲ參與ト爲ス○實美等筑前
ヨリ至ル。乃實美ヲ以テ議定ト爲シ。東久世通禧
等ヲ參與ト爲ス○三年正月。德川慶喜京師ヲ犯
ス。官軍討チテ之ヲ卻ク。初慶喜ノ政權ヲ還スヤ。
物情恟恟タリ。容保定敬等慶喜ニ勸メ。夜ニ乘シ
テ大坂ニ赴カシム。朝議德川慶勝松平慶永ヲ遣
リ。慶喜ヲ慰安ス。既ニシテ東軍ノ將士慶喜ニ説
キ。兵ヲ舉ケシム。慶喜遂ニ意ヲ決シ之ニ從フ。是
ニ至リ。慶喜諸軍ヲ部署シ。鳥羽伏見ヨリ進ミテ。
京師ヲ犯ス。乃仁和寺嘉彰親王ヲ以テ總督ト爲

慶喜江戸ニ走ル

シ。錦旗ヲ賜ヒ之ヲ討タシム。連戦皆捷ツ。慶喜乃容保定敬等ト。海ニ航シ江戸ニ走ル。官軍大坂城ヲ取ル。賊兵敗レテ。紀伊大和ニ入り。海陸逃レ歸ル。○詔シテ慶喜ノ官爵ヲ削リ。諸將ヲ分遣シテ。

熾仁親王ヲ大總督ト為ス

近畿ヲ徇ヘシム。諸藩皆服ス。○二月。熾仁親王ヲ以テ大總督ト為シ。西郷隆盛林通顯ヲ參謀ト為シ。諸國ノ兵ヲ徵シテ。慶喜ヲ討タシム。岩倉具定ヲ以テ東山道先鋒總督兼鎮撫使ト為シ。橋本實梁ヲ東海道先鋒總督兼鎮撫使ト為シ。高倉永祐ヲ北陸道先鋒總督兼鎮撫使ト為シ。三道並ヒ進

三道ノ先鋒並ヒ進ム

外國公使ヲ廷見ス

ム。○土佐藩ノ坂浦ヲ成ル者。佛蘭西人ヲ殺傷ス。佛蘭西公使怒リテ償金ヲ求ム。乃其徒二十人ヲ捕ヘテ自殺セシム。事平ク。○始メテ英吉利佛蘭西和蘭公使ヲ廷見ス。刺客英吉利公使ノ從衛ヲ衝ク。英吉利公使朝ヲ果サス。月ヲ踰エテ聘禮ヲ畢フ。○諸藩ヲ分チテ大中小三等ト為ス。○三月。

新政ヲ布告ス。天皇五事ヲ誓フ

新政ヲ布告ス。天皇大ニ公卿諸侯ヲ會シ。五事ヲ誓フ。曰ク廣ク會議ヲ興シ。萬機公論ニ決セン。上下心ヲ一ニシ。盛ニ經綸ヲ行ハン。官武一途。庶民ニ至ルマテ。各其志ヲ遂ケ。人心ヲシテ倦マサラ

天皇海軍ヲ閱ス

慶喜東叡山ニ屏居ス

レメン。舊來ノ陋習ヲ破リ。天地ノ公道ニ基カン。知識ヲ世界ニ求メ。大ニ皇基ヲ振起セシト。○天皇六師ヲ師キ。海軍ヲ大坂ニ閱ス。因リテ蹕ヲ駐ム。此時ニ當リ。北陸ノ先鋒已ニ越中ニ入り。東海東山ノ先鋒亦箱根碓氷ニ及フ。慶喜東叡山ニ屏居レ。山岡高步等ヲ大總督ノ營ニ遣リ。西郷隆盛ニ就キテ哀ヲ乞フ。乃謝罪ノ實効ヲ責メテ之ヲ歸ス。旗下ノ士懌ハス。近藤昌宜甲斐ニ走リ。古屋珍智下野ニ走ル。官軍進ミテ板橋品川ニ屯ス。慶喜復大久保忠寛勝義邦ヲ遣リテ。謝罪ノ條欵ヲ

勅使江戸ニ入ル

武揚純彰等走ル

陳ス。是ニ於キテ。大總督三道ノ總督ニ令シテ。進討ヲ止メシム。○四月。勅使柳原前光等江戸ニ入り。詔ヲ宣シ。慶喜ノ死一等ヲ減シ。命スルニ五事ヲ以テス。曰ク慶喜ヲ水戸城ニ幽ス。曰ク江戸城ヲ收ム。曰ク軍艦銃砲ヲ收ム。曰ク家臣ヲ郭外ニ屏ク。曰ク家臣入犯ノ謀ニ與ル者ヲ處分セヨト。徳川慶頼慶喜ニ代リテ詔ヲ奉ス。是ニ於キテ。榎本武揚兵艦ヲ率キテ安房ニ走リ。福田道直歩兵ヲ率キテ上總ニ走リ。大鳥純彰下總ニ走ル。純彰轉シテ結城宇都宮ヲ取ル。東山道ノ官軍之ヲ復

官軍昌宜ヲ禽ニス。○熾仁親王使ヲ馳セテ慶喜恭順ノ狀ヲ奏ス。是ニ於キテ車駕官ニ還ル。尋キテ三條實美ヲ以テ關東大監察使ト爲シ。江戸ニ赴カシム。○始メテ楮幣ヲ製シ。十三年ヲ限リテ之ヲ行フ。○松平容保若松城ニ據ル。大鳥純彰之ニ投ス。○官制ヲ改定シ。太政官ヲ以テ議政行政神祇會計外國刑法七官ト爲シ。地方ヲ府藩縣ト爲ス。純彰日光山ニ走ル。○列藩ニ令シテ舊習ヲ整革シ。人材ヲ擢用セシメ。巡察使ヲ差遣シテ之ヲ按檢ス。○閏四月。山道ノ別軍近藤昌宜ヲ流山ニ擊チ之ヲ禽ニス。○熾仁親王使ヲ馳セテ慶喜恭順ノ狀ヲ奏ス。是ニ於キテ車駕官ニ還ル。尋キテ三條實美ヲ以テ關東大監察使ト爲シ。江戸ニ赴カシム。○始メテ楮幣ヲ製シ。十三年ヲ限リテ之ヲ行フ。○松平容保若松城ニ據ル。大鳥純彰之ニ投ス。○官制ヲ改定シ。太政官ヲ以テ議政行政神祇會計外國刑法七官ト爲シ。地方ヲ府藩縣ト爲

官軍昌宜
 ヲ禽ニス
 車駕京師
 ニ還ル

楮幣ヲ造
 カシム

奥羽諸藩
 會盟ス

賊軍砥徳
 ヲ殺ス

官軍彰義
 隊ヲ平ク

ス。○伊達慶邦上杉齊憲陸奥出羽諸藩ト白石ニ會盟シ。鎮撫總督九條道孝ヲ要シテ。仙臺ニ置キ。參謀世良砥徳ヲ殺ス。是ヨリ先。副總督澤為量參謀大山綱良莊内ニ向フ。米澤藩兵ヲ出シテ之ヲ要セントス。爲量秋田ニ走ル。○五月。伊達慶邦上杉齊憲再奥羽諸藩ト仙臺ニ會盟シ。班師ヲ朝廷ニ請ヒ。若允サレヌハ。兵ヲ擧ケテ薩長ヲ擊タシム。謀ル。○官軍東叡山ノ賊ヲ平ク。初幕府ノ七臣。彰義隊ト號シ。東叡山ニ屯シ。輪王寺公現法親王ヲ擁シ。幕府ノ恢復ヲ謀ル。横恣日ニ甚シ。軍務長

東連ヲ駿
府ニ封ス

官大村永敏諸軍ヲ勒シ。撃チテ之ヲ破ル。賊法親
王ヲ挾ミテ會津ニ走ル。○德川家達ヲ駿府ニ封
シ。遠江陸奥數郡ヲ併セ。七十萬石ヲ賜ヒ。慶喜ノ
後ヲ承ケシメ。其臣隸ノ官爵ヲ停ム。是ヨリ先慶
喜水戸ニ屏居ス。是ニ至リ駿府ニ徙ル。○六月九
條道孝久保田ニ走ル。是時ニ當リ。會津米澤仙臺
盛岡莊内二本松三春等十七藩合從シテ官軍ニ
抗ス。獨秋田弘前久保田數藩ノ官軍ニ從フ。○
七月。道孝佐竹義堯ヲ以テ莊内征討先鋒ト爲シ。
賊ト船形ニ戰ヒ。利アラヌ。莊内ノ兵進ミテ矢島

真羽十七
藩合從ス

三道官軍
賊ヲ討ツ

官軍若松
城ヲ攻ム

江戸ヲ東
京ト稱ス

ヲ襲フ。生駒親敬敗レテ久保田ニ走ル。仙臺南部
亦兵ヲ出シテ久保田ヲ攻ム。久保田甚急ナリ。既
ニシテ官軍白河平潟越後三道ヨリ進ミ。一ハ白
河ヲ復シ。棚倉ヲ取り。二本松ヲ拔キ。一ハ岩城ヲ
陷シ。相馬ヲ下シ。仙臺ニ逼リ。一ハ長岡ヲ復シ。新
潟ヲ取り。新發田ヲ下ス。賊勢漸蹙ル。○是月。江戸
ヲ改メテ東京ト稱シ。鎮將府ヲ置キ。三條實美ヲ
シテ之ヲ掌ラシメ。駿河以東十三國ヲ管ス。○八
月。天皇位ニ即ク。○九月。官軍石筵ノ險ヲ踰エ。猪
苗代ヲ取り。進ミテ若松城ヲ攻ム。松平容保城ニ

據リ。以テ官軍ヲ拒ク。其兵善ク戦フ。是ニ至リ。越
 後ノ官軍來リ會シ。攻撃甚急ナリ。城中糧米彈藥
 皆盡キ。復支フル能ハス。遂ニ降ル。奥羽ノ諸藩相
 尋キテ降リ。久保田ノ圍始メテ解ク。公現法親王
 仙臺ニ在リ。亦上書シテ罪ヲ謝ス。時ニ榎本武揚
 寒風澤ニ至ル。大鳥純彰等會津ヨリ之ニ會シ。海
 二浮ヒテ東シ。箱館ヲ取リ。五稜郭ニ據リ。連ニ江
 差福山ヲ陷ル。○是月。明治ト改元シ。一世一元ノ
 制ヲ定ム。天長節ヲ復シテ聖誕ヲ祝シ。百官ニ酺
 天皇東京ニ幸シ。乃鎮將府ヲ廢ス
 武揚純彰
 等箱館ニ
 據ル
 一世一元
 ノ制ヲ定
 ム
 天皇東京
 ニ幸ス
 一行幸ス

熾仁親王
ノ功ヲ賞
ス

嘉彰親王
凱旋ス

陸奥出羽
ヲ割ク

○十一月詔シテ征東大將軍熾仁親王ノ功ヲ賞
 シ。其任ヲ解ク。親王錦旗節刀ヲ奉還ス。參謀西郷
 隆盛等皆罷ム。○軍務官知事兼越後總督嘉彰親
 王凱旋シ。錦旗節刀ヲ奉還ス。尋キテ諸軍皆凱旋
 ス。○徳川家達ニ命シテ箱館ノ賊ヲ討タシム。尋
 キテ徳川昭武ヲシテ之ニ代ラシム。○十二月。陸
 奥ヲ割キテ。磐城岩代陸前陸中陸奥五國ト爲シ。
 出羽ヲ割キテ。羽前羽後二國ト爲ス。○松平容保
 及其黨與ヲ罰スル。各差アリ。○天皇京師ニ還幸
 ス。女御藤原美子ヲ立テ、皇后ト爲ス。○二年。正

諸道ノ関門ヲ廢ス

月。詔シテ諸道ノ関門ヲ廢ス。○德川昭武ノ出征ヲ停メ。特ニ兵ヲ出サシム。○二月。新聞紙ヲ刊行スルヲ許ス。○三月。天皇東京ニ幸ス。○海陸二軍ヲ發シテ箱館ノ賊ヲ討ツ。○四月。江差福山ヲ復シ。進ミテ矢不來ニ戰ヒ。大ニ之ヲ破ル。○五月。賊ヲ五稜郭ニ蹙ム。武揚純彰等善ク拒ク。參謀黒田清隆中山良三等諭シテ之ヲ降ス。蝦夷地悉平ク。○六月。諸藩版籍奉還ノ請ヲ聽シ。其主ヲ以テ知藩事ト爲シ。公卿諸侯ノ稱ヲ廢シ。總ヘテ華族ト稱ス。是ヨリ先。島津忠義毛利敬親鍋島直大山内

蝦夷地平
版籍奉還
ヲ聽ス

有功ヲ録ス

官制ヲ改定ス

蝦夷ヲ北
海道ト稱ス

開拓使ヲ
置ク

豐範上表シテ。封土人民ヲ奉還セント請フ。諸藩之ニ倣フ。是ニ至リ其請ヲ聽ス。○招魂社ヲ東京ニ建テ。以テ國事ニ死スル者ヲ祭リ。又有功ヲ録シ。熾仁親王以下二十三卿。薩長土以下九十餘藩主。西郷隆盛以下百餘人ニ。秩祿或ハ金幣ヲ賜フ。差アリ。○七月。官制ヲ改定シ。二官六省ヲ置ク。○京都大坂東京ノ三府ヲ除キ。他ハ府ヲ改メテ縣ト爲ス。○八月。詔シテ蝦夷ヲ改メテ。北海道ト稱シ。渡島後志石狩天鹽北見膽振日高十勝釧路根室千島樺太十二國ヲ定メ。開拓使ヲ置キテ之ヲ

徳島藩士
私闘ス

管セシム○九月。盗アリ。兵部大輔大村永敏ヲ傷ク。永敏尋キテ歿ス○十月。皇后東京ニ行啓ス○三年。正月。慶喜容保定敬等ノ舊臣及各藩亡命兵士ノ罪ヲ赦ス○二月。是ヨリ先。山口藩兵制ヲ釐革シ。隊兵ヲ解ク。隊兵怨望シ。遂ニ藩廳ヲ圍ム。撃テテ之ヲ破リ。巨魁ヲ捕フ。餘黨逃レテ鎮西ニ入リ。出沒横行ス。是ニ至リ。大納言徳大寺實則ヲ以テ宣撫使ト爲シ。山口藩ニ差遣シ。西海諸藩ニ令シテ之ヲ鎮セシム。尋キテ平ク○五月。徳島藩士淡路ヲ焚掠ス。初其國老稻田邦植ノ臣藩士ト相

山口藩兵
制ヲ釐革
ス

墨刑ヲ廢
ス

惡ム。維新ノ際。邦植王事ニ功アリ。藩士其藩屏ニ列セント欲スルヲ忌ミ。兵ヲ發シテ其邑洲本ヲ襲フ。尋キテ平ク○九月。墨刑ヲ廢シ。庶人人姓氏ヲ稱スルヲ許ス○十月。兵制ヲ釐革シ。海軍英吉利ニ法リ陸軍ハ佛蘭西ニ法ル○十二月。詔シテ

新律ヲ頒
ツ

新律ヲ頒ツ○四年。正月。盗アリ。參議廣澤真臣ヲ

郵便ヲ設
ク

戕ス○郵便ヲ兩京大坂ノ間ニ設ケ。文書ノ往復ニ便ス。尋キテ大ニ諸道ニ行ヒ。遂ニ海外ニ達ス

○二月。丁抹公使電信線ヲ日本清ノ海底ニ連接セント請フ。之ヲ許ス。六月ニ至リテ成ル。尋キテ

皇城ヲ清ツ
ニ遣ル

皇城ニ架設シ。遂ニ五畿八道ニ施ス。○陸長土三藩ノ兵ヲ徵シテ親兵ト為ス。○四月。戶籍法ヲ頒

シ。清ニ遣リ鄰好ヲ修メシム。外務大丞柳原前光

之ニ從フ。○五月。參議副島種臣ヲ魯西亞ニ遣リ。

樺太疆界ノ事ヲ議セシム。○七月。藩ヲ廢シテ縣

ト為シ。藩知事ヲ召シテ東京ニ住セシム。○大學

ヲ廢シ。文部省ヲ置ク。○八月。脫刀散髮ヲ許シ。穢

多非人ノ稱ヲ廢シテ民籍ニ編シ。庶人ノ乘馬ヲ

許ス。○官制ヲ釐定シ。太政官ヲ以テ本官ト為シ。

藩ヲ廢シ
縣ヲ置ク

官制ヲ釐
定ス

全權大使
ヲ米歐ニ
差遣ス

三府七十
二縣ヲ定
ム

諸省ヲ分官ト為シ。官等十五ヲ立テ。勅任奏任判

任ノ等級ヲ更ム。乃納言樞密史ヲ廢シテ。左右正

權大少内外史ヲ置キ。議員ヲ改メテ議官ト稱シ。

正副議長ヲ置ク。○十月。外務卿岩倉具視ヲ以テ

右大臣兼特命全權大使ト為シ。米利堅歐羅巴諸

國ニ差遣ス。參議木戸孝允大藏卿大久保利通等

之ニ副ス。○十一月。三府七十二縣ヲ定ム。府ニ知

事アリ。縣ニ令アリ。郡縣ノ制大ニ定ル。○十二月。

華士族ニ農工商ノ業ヲ營ムヲ許ス。○東京裁判

所ヲ司法省ニ置キ。府下ノ聽訟斷獄ヲ掌ラシム

楮幣ヲ改造ス

○新楮幣ヲ行フ。舊楮幣紙質粗ニシテ贋造シ易キヲ以テナリ。○五年正月。松平容保松平定敬榎本武揚大島純彰等ノ罪ヲ宥ム。○開拓使楮幣ヲ發ス。○二月。兵部省ヲ廢シ。海陸軍二省ヲ置ク。○東京横濱間ノ火輪車路成ル。○三月。親兵ヲ廢シテ。近衛兵ヲ置ク。○五月。天皇鎮西ニ巡幸シ。民ノ疾苦ヲ問フ。參議西郷隆盛等從フ。○師範學校ヲ東京ニ設ク。○七月。車駕宮ニ還ル。○八月。三井商會ノ請ヲ許シ。始メテ國立銀行ヲ設ケレム。○學制ヲ領チ。七道ヲ劃シテ八大學區ト爲シ。尋キテ

天皇鎮西ニ幸ス

師範學校ヲ設ク

國立銀行ヲ創ム

學制ヲ領

琉球王ヲ冊ス

秘魯船ヲ拘ス

大陽曆ヲ行フ

七大學區ニ改ム。○九月。琉球ノ使臣入朝シ。方物ヲ獻ス。詔シテ其王尚泰ヲ冊シテ藩王ト爲シ。華族ニ列シ。金幣及火輪船ヲ賜フ。○秘魯船ヲ横濱ニ拘ス。初秘魯ノ商船清民ヲ強買シ。横濱ニ來ル。清民脱シテ哀ヲ乞フ者アリ。乃之ヲ清ニ報ス。清使ヲ遣シテ救解ヲ請フ。秘魯ノ船主船ヲ棄テ、遁ル。乃清民ヲ還附シ。其船ヲ拘ス。○私ニ銃砲彈藥ヲ販賣スルヲ禁ス。○十一月。大陰曆ヲ廢シ。大陽曆ヲ行フ。乃明治五年十二月三日ヲ以テ。明治六年一月一日ト爲シ。又神武帝即位ノ年ヲ以テ。

徵兵ノ制ヲ設ク
紀元元年ト為ス○十二月。詔シテ徵兵ノ制ヲ設ク○六年。一月。六鎮臺ヲ東京仙臺名古屋大坂廣

六鎮臺ヲ建ツ
島熊本ニ建テ。軍營十四ヲ分管ス○外務卿副島種臣ヲ以テ全權大使ト為シ。清ニ差遣ス○三月。

地券ヲ行フ
地券ヲ行ヒ。土地ノ名稱八種ヲ定ム○五月。島津久光ニ勅シテ入朝セシメ。國事ヲ諮詢ス○皇城

田租ヲ改ム
火アリ。天皇赤坂ノ離宮ニ幸ス○七月。田租ヲ改ム。新ニ地券ヲ頒チ。地價百分ノ三ヲ徵ス○九月。

特命全權大使岩倉具視等歐羅巴ヨリ還ル○十月。參議西鄉隆盛副島種臣後藤玄燁板垣退助江

參議五人ヲ罷ム
藤新平ヲ罷ム。初朝廷屢使ヲ朝鮮ニ遣ル。皆要領ヲ得ス。廟議殆ト征韓ニ決ス。會岩倉具視木戸孝

允等歸朝シ其見合ハス。是ニ至リ。隆盛等皆官ヲ辭ス○十二月。家祿賞典祿奉還ノ制ヲ設ケ。請フ

者ニハ。六年間ノ金額ヲ與フ○是歲。北條青森敦賀鳥取廣島福岡三瀨諸縣土民亂ヲ作ス。尋キテ

皆平ク○七年。一月。警視廳ヲ東京ニ置ク。後内務省ニ屬シ。其官等ヲ定ム○二月。江藤新平島義勇

新平義勇等亂ヲ作ス
等亂ヲ佐賀ニ作ス。内務卿大久保利通ヲ遣リ之ヲ鎮撫セシム。會縣令岩村高俊熊本鎮臺ノ兵ヲ

以テ縣廳ヲ守衛ス。既ニシテ糧竭キ。筑後ニ走ル。事聞ス。乃嘉彰親王ヲ以テ征討總督ト爲シ。陸軍中將山縣有朋ヲ參軍ト爲シ之ヲ討タシム。未至ラサルニ。利通賊軍ヲ撃チテ之ヲ破リ。新平義勇ヲ誅ス。亂平ク○四月。陸軍中將西郷從道ヲ以テ都督トシ。陸軍少將谷干城海軍少將赤松則良ヲ參軍ト爲シ。兵艦ヲ率テ台灣ヲ討タシム。是ヨリ先。台灣東部ノ生蕃我小田縣及琉球藩ノ漂民ヲ劫掠ス。是ニ至リ其罪ヲ討ス。台灣ハ東西二部ニ分レ。西部ハ清ニ屬シ。東部ハ其羈束ヲ受ケス。

利通賊ヲ平ク

台灣ヲ討

生蕃我漂民ヲ劫掠

久光左大臣ニ任ス。○島津久光ヲ以テ左大臣ニ任ス。○五月。台灣降ル。初我師ノ台灣ニ入ル。諸酋欵ヲ納ル。獨牡丹蕃頑冥服セス。乃其巢窟ヲ焚キ。酋長ヲ斬ル。是ニ於キテ。生熟二蕃十八社悉出テ降ル。○火輪車路ヲ大坂神戸ノ間ニ敷ク。○六月。屯田憲兵ヲ北海道ニ置ク。○八月。大久保利通ヲ以テ特命全權辦理大臣ト爲シ。清ニ差遣ス。初台灣ノ役。清違言アリ。全權公使柳原前光之ヲ争フ。決セス。利通北京ニ至リ。總理衙門ノ諸大臣ト。往復辨論シ。遂ニ銀五十萬兩ヲ清ニ取リ。以テ

久光左大臣ニ任ス

利通ヲ清ニ差遣ス

利通總理衙門ト辨論ス

利通清ノ
償金ヲ取
ル

台地修道建營ノ費ヲ辨シ且害ヲ被ル漂民ヲ撫恤ス○九月府縣ニ令シ學校營築ノ地ヲ給ス○

女子師範
學校ヲ創
ム

八年二月英吉利佛蘭西橫濱居留地ノ衛兵ヲ撤ス○女子師範學校ヲ東京ニ創ム乃金五千圓ヲ賜ヒテ其費ヲ助ク○三月陸軍中將西郷從道ヲ

元老大審
二院ヲ置
ク

長崎ニ遣リ征台戰死者ヲ祭ル○四月元老院大審院ヲ置キ立法司法ノ權ヲ鞏クス○五月上等

地方官會
議ヲ創ム

裁判所ヲ東京大坂長崎仙臺ニ設ク○六月讒謗律新聞條例ヲ頒ツ○琉球藩王ニ令シテ藩制ヲ釐革セシム○七月地方官會議ヲ創ム參議木戸

江華島ヲ
取ル

孝尙議長ヲ兵庫縣令神田孝平神奈川縣令中

島信行千葉縣令柴原和幹事タリ○十月我兵朝

鮮ノ江華島ヲ取ル初海軍將ニ清ニ航セントレ

薪水ヲ江華島ニ需ム守兵ノ砲擊スル所ト爲ル

乃攻メテ砲臺ヲ拔キ其城ヲ焚ク尋キテ兵艦ヲ

釜山浦ニ遣リ以テ我居留人ノ不虞ニ備ヘシム

○左大臣島津久光職ヲ辭シ國ニ就ク○十一月

千島樺太交換ノ條約ヲ頒ツ是ヨリ先海軍中將

榎本武揚ヲ以テ特命全權公使ト爲シ魯西亞ニ

差遣シ樺太ヲ魯西亞ニ與ヘ千島ニ換フルノ約

千島樺太
ヲ交換ス

武揚ヲ魯
西亞ニ遣
ル

千島樺太交換ノ條約ヲ頒ツ

十一

森山茂ヲ
朝鮮ニ差
遣ス

ヲ訂フ。是ニ至リ之ヲ布告ス。○十二月。外務少丞

森山茂ヲ以テ理事官ト爲シ。朝鮮ニ差遣ス。初維

新以來數使ヲ遣ル。朝鮮拒ミテ受ケス。是ニ至リ。

亦細故ヲ論シ。日ヲ曠クレ久キニ彌ル。茂遂ニ要

領ヲ得スレテ還ル。○九年。三月。是ヨリ先陸軍中

將黒田清隆ヲ以テ特命全權辨理大臣ト爲シ。元

老院議官井上馨ヲ副使ト爲シ。兵艦ヲ率キテ。朝

鮮ニ差遣シ。江華島ノ事ヲ責問セシム。是ニ至リ。

朝鮮和ヲ請フ。遂ニ交ヲ修メテ還ル。○度量權衡

ヲ改ム。○離宮ヲ芝濱ニ置ク。○佩刀ヲ禁ス。○五

清隆等ヲ
朝鮮ニ差
遣ス

朝鮮信使
來ル

與羽ニ巡
幸ス

月朝鮮ノ修信使金綺秀等來ル。○六月。天皇與羽

ニ巡幸ス。右大臣岩倉具視内閣顧問木戸孝允等

從フ。内務卿大久保利通先發ス。時ニ農桑ニ際ス。

或ハ民ヲ擾サンコトヲ恐レ。沿道ニ令レテ曰ク。

輦路修築スルヲ須キス。橋梁新架スルヲ用キス。

行宮ハ在ルニ隨ヒ。補葺ヲ要セス。民庶ハ業ヲ廢

スル勿レ。旅客ハ行ヲ止ムル勿レ。凡百ノ費ハ皆

官ヨリ之ヲ給セシ。絲毫モ民ニ課スル勿レ。又地

方官ヲ行在所ニ召レテ。親シク民ノ疾苦ヲ問フ。

埼玉縣令白根多助。收租ノ法ヲ奏レテ曰ク。實穀

ノ如キハ。一時ニ之ヲ徵スルモ可ナリ。折色ニ至
リテハ。之ヲ數回ニ收ムルニ非サレハ。民堪ヘス
ト。凡車駕ノ過クル所。蒲生君平世良砥徳等ノ墓
ニ金幣ヲ賜ヒ。孝子義僕節婦ヨリ。以テ疏渠興産
及種藝牧畜等ノ績アル者ニ至ルマテ。物ヲ賜フ
差アリ○七月。車駕箱館ニ至リ。海ニ浮ヒテ宮ニ
還ル○火輪車路ヲ開キ。大坂ヨリ西京ニ達ス○
太政大臣三條實美參議寺島宗則等ヲ遣リ。北海
道ヲ巡察セシム○九月。地方裁判所ヲ東京横濱
等二十三所ニ置ク○十月。熊本ノ人大野鐵平加

地方裁判
所ヲ置ク

熊本ノ亂
屋堅齋等亂ヲ作シ。鎮臺司令長官種田政明縣令
安岡良亮ヲ殺ス。乃陸軍少將三浦梧樓陸軍少將
大山巖ヲ熊本ニ遣リ。又内務少輔林友幸ヲ西海
ニ遣ル。未至ラサルニ。鎮兵討チテ之ヲ平ク。時ニ
秋月ノ人宮崎車之助今村百八郎等亦兵ヲ募リ。
熊本ノ賊ニ應ス。福岡縣令渡邊清之ヲ討ツ。賊轉
シテ豊津ニ入り。土人ヲ誘フ。應セズ。遂ニ反リテ
秋月ヲ襲フ。尋キテ皆捕ニ就ク○前原一誠奥平
長門ノ亂謙輔反ス。初一誠官參議タリ。謙輔相川縣判事タ
リ。俱ニ新政ヲ喜ハス。官ヲ罷メテ家居ス。熊本ノ

賊起ルニ及ヒ。遂ニ其黨ヲ長門ニ聚メ。官軍ノ撃
チ敗ル所ト爲リ。海路山陰ニ赴ク。尋キテ誅ニ伏
ス。○十一月。皇后西京ニ行啓ス。○十二月。三重茨
城二縣ノ民蜂起ス。尋キテ平ク。○十年。一月。詔シ
テ田租ヲ減シ。地價百分ノ二分五釐ト爲シ。官省
院使ノ費額ヲ省減ス。○是月。天皇大和及西京ニ
幸ス。太政大臣三條實美内閣顧問木戸孝允參議
伊藤博文等從フ。皇太后亦西京ニ行啓ス。天皇乃
皇太后皇后ト。泉涌寺ニ詣リ。孝明帝ノ陵ヲ祭リ。
翌月。畝火山ニ詣リ。神武帝ノ陵ヲ祭ル。○二月。西

大和西京
ニ行幸ス

減租ノ詔

隆盛反ス。郷隆盛反ス。初隆盛功ヲ王室ニ建テ。官陸軍大將
ニ至ル。名望甚隆ナリ。桐野利秋篠原國幹亦陸軍
少將タリ。征韓ノ議格スルニ及ヒ。相率キテ國ニ
歸リ。學校ヲ興シ。壯士ヲ訓ヘ。隱然トシテ一國ノ
重ヲ爲ス。是ニ至リ。利秋國幹等ト。君側ヲ清ムル
ヲ以テ名ト爲シ。兵ヲ擧ク。應スル者無慮數萬人。
進ミテ熊本城ヲ攻ム。鎮臺司令長官谷干城堅ク
守ル。其兵僅ニ三千ニ過キス。隆盛之ヲ圍ム數重。
砲擊晝夜ヲ連ヌ。城陷ル旦夕ニ在リ。事聞ス。乃隆
盛以下ノ官爵ヲ削リ。熾仁親王ヲ以テ征討總督

賊熊本城
ヲ圍ム

隆盛山鹿
田原坂ヲ
拒ス

ト爲シ。陸軍卿山縣有朋海軍大輔河村純義ヲ參
軍ト爲シ之ヲ討タシム。隆盛乃兵ヲ分チテ山鹿
田原坂ノ險ヲ拒ス。連戰決セス。既ニシテ國幹戰
死ス。賊將貴島清坂田諸潔等來リ援ク。官軍肉薄
之ヲ攻ム。血戰數旬。枕骸野ニ滿チ。未拔ク能ハス
○三月。朝議黒田清隆ヲ以テ參軍ト爲シ。陸軍少
將山田顯義大警視川路利良之ニ副シ。八代ヨリ
兵ヲ進メ。賊背ヲ衝カシム。○四月。増田久米麻呂
等兵ヲ中津ニ舉ケテ。隆盛ニ應シ。大分縣廳ヲ襲
フ。克タス。走リテ隆盛ニ投ス。○八代ノ官軍。轉鬪

清隆賊背
ヲ衝ク

干城大義
士卒ヲ勵
マス

賊木山ニ
據ル

賊鹿兒島
ヲ攻ム

皆捷チ。長驅シテ熊本城ニ達ス。城圍ヲ受ケル五
旬。糧米彈藥。僅ニ十日ヲ支フヘシ。干城兵士ト甘
苦ヲ同クシ。大義ヲ以テ之ヲ勵マス。一人敢テ叛
ク者ナシ。是ニ至リ。山鹿田原坂ノ官軍。亦賊ヲ破
リ來リ會ス。隆盛退キテ木山ニ據リ。兵ヲ分チテ
防戦ノ備ヲ爲ス。官軍之ニ薄ル。隆盛走リテ人吉
ヲ保ツ。官軍乃兵ヲ分チ。海路ヨリ鹿兒島ニ入ル。
隆盛別軍ヲ遣リテ之ヲ攻ム。河村純義大山巖等
善ク拒ク。賊軍拔ク能ハス。時ニ日向ノ賊軍亦豊
後ニ入リ。重岡ヲ襲ヒ。竹田臼杵ニ屯ス。○五月。内

孝允薨マ閣顧問木戸孝允薨ス。孝允夙ニ王事ニ勤メ。維新

ノ政ヲ贊翼ス。天皇親臨シテ其病ヲ問ヒ。薨スル

ニ及ヒ。正二位ヲ贈リ。金幣ヲ賜フ。○六月。山田顯

義人吉ヲ攻ム。賊軍險ニ據リテ射戦ス。顯義銳ヲ

盡シテ遂ニ之ヲ拔ク。川路利良亦出水ヨリ進ミ。

賊ヲ破リテ。遂ニ鹿兒島ニ達ス。賊軍乃大隅ニ走

ル。是ニ至リ。臼杵重岡ノ賊亦敗レテ日向ニ走ル

○七月。官軍追撃シテ都城ヲ復シ。兵ヲ諸路ニ分

チ賊ヲ蹙メ。遂ニ宮崎ヲ復シ。佐土原ヲ取ル。降附

日ニ多シ。○八月。内國勸業博覽會ヲ東叡山ニ開

會勸業博覽

隆盛可愛
岳ヲ保ツ

ク。是ヨリ先。天皇還幸アリ。皇后及皇族大臣ヲ率

テ之ニ臨ム。○官軍高鍋ヲ取リ。美々津ヲ復ス。

隆盛退キテ延岡ニ在リ。官軍撃チテ之ヲ破ル。隆

盛走リテ可愛岳ヲ保ツ。官軍之ヲ圍ム數重。隆盛

夜其軍ヲ散シ。精兵數百ヲ率テ圍ヲ潰ヤシテ走

リ。九月。鹿兒島ニ入ル。官軍之ヲ城山ニ圍ム。海陸

ノ諸軍皆來リ會ス。兵凡五萬。攻撃スルニ旬餘。隆

盛利秋清等皆戦死ス。亂始メテ平ク。時ニ民兵禍

ニ罹リ。瘡痍野ニ滿ツ。乃地方官ニ命シテ。厚ク之

ヲ賑恤セシム。○臨時裁判所ヲ長崎ニ開キ。大山

隆盛等戦
死ス

賊黨ヲ處
刑ス

官軍凱旋
ス

勲位勲章
ヲ賜フ

網良等ノ罪ヲ鞠審セシム。初網良功ヲ與羽ノ役ニ建テ。鹿兒島縣令ト爲ル。隆盛叛クニ及ヒ。陰ニ官金ヲ以テ賊軍ニ輸ス。是ニ至リ誅セラル。坂田諸潔増田久米麻呂等。斬ニ處スル者十九人。罪ヲ宥スル者三萬六千餘人。○十月。官軍凱旋ス。詔シテ征討總督熾仁親王ヲ拜シテ。陸軍大將ト爲ス。○十一月。大ニ功ヲ論シ賞ヲ行ヒ。勲位ヲ熾仁親王ニ。勲章ヲ陸軍卿山縣有朋陸軍中將黒田清隆海軍大輔河村純義陸軍少將山田顯義陸軍少將谷干城陸軍少將大山巖大警視川路利良等ニ賜

清欽差大臣
來ル

清ノ飢民
ヲ賑ス

地方官會
議ヲ設ク

盜利通ヲ
戕ス

フ。賞賜各差アリ。○是歲虎列剌病行ハル。西南ノ地殊ニ甚シ。死スル者殆八千人。○十一年。一月。清ノ欽差大臣何如璋副使張斯桂等來リ東京ニ駐ル。○三月。是ヨリ先。清ノ陝西直隸二省。饑ニ阻ム。第一國立銀行頭取澁澤榮一等。首トシテ救恤ヲ唱ヘ。米穀ヲ輸送ス。其惠ニ賴ル者多シ。○四月。地方官會議ヲ設ク。參議伊藤博文議長タリ。内閣委員松田道之東京府知事楠本正隆愛知縣令安場保和福岡縣令渡邊清幹事タリ。天皇屢之ニ臨ム。○五月。盜アリ。參議兼内務卿大久保利通ヲ戕ス。

郡區編制
法ヲ定ム

府縣會
定ム

利通カヲ維新ノ政ニ致シ。功績尤多シ。天皇震悼
シ。正二位右大臣ヲ贈リ。金幣ヲ賜フ。○八月。新制
ヲ定ム。府縣ノ下郡區町村ヲ置キ。郡ニ郡長アリ。
區ニ區長アリ。町村ニ戸長アリ。知府事縣令之ヲ
總管ス。又府縣會ヲ定ム。地方稅ヲ議セシム。定期
ニ於キテ開ク者ヲ通常會ト曰ヒ。事アルニ因リ
テ開ク者ヲ臨時會ト曰フ。議員ハ之ヲ公選ニ舉
ク。皆地方官會議ニ決スル所ナリ。○高知縣ノ人
大江卓林有造岩神昂藤好靜等及和歌山縣ノ人
陸奥宗光ヲ獄ニ幽ス。初西鄉隆盛ノ亂ヲ作ス。好

金祿公債
證書ヲ華
士族ニ賜
フ

北陸東海
ニ巡幸ス

東京學士
會院ヲ設

靜桐野利秋ト謀ヲ通シ。竊ニ不軌ヲ圖ル。宗光元
老院幹事タリ。其事ニ與ル。是ニ至リ。亦坐レテ幽
セラル。○金祿公債證書ヲ華士族ニ賜フ。通計一
億七千四百二十一萬九千餘圓。世祿是ニ至リテ
全ク廢ス。○是月。天皇北陸東海二道ニ巡幸シ。民
ノ疾苦ヲ問フ。右大臣岩倉具視參議大隈重信并
上馨陸軍大輔大山巖等從フ。儀皆東巡ノ時ノ如
シ。車駕過クル所。高山正之武田正生藤田信等ヲ
追恤シ。各金幣ヲ賜フ。十一月。車駕宮ニ還ル。○十
二年。一月。東京學士會院ヲ文部省ニ設ケ。朝野ノ

琉球藩ヲ廢ス

碩學ヲ會ス○四月。琉球藩ヲ廢シ。沖繩縣ヲ置ク。初藩王尚泰竊ニ貢船ヲ清ニ進メ。且兩屬ヲ請ヒテ止マス。乃内務大書記官松田道之ヲ遣リ。遂ニ藩ヲ廢シ縣ヲ置キ。尚泰ヲシテ東京ニ移住セシメ。尋キテ鍋島直彬ヲ以テ令ト為ス○七月。米利堅前大統領格郎德來ル○八月。天皇上野公園ニ幸ス。是ヨリ先。西海北陸東山東海四道ニ巡狩ス。是ニ至リ。府民車駕ヲ公園ニ迎ヘント請フ。之ヲ許ス。格郎德亦會シ。供帳極メテ盛ナリ○九月。學制ヲ罷メテ教育令ヲ布ク○十月。徵兵令ヲ改定

格郎德來ル
上野公園ニ幸ス

教育令ヲ布ク

徵兵令ヲ改定ス
歲入出ヲ報告ス

虎列刺病行ハル

地方官會議ヲ設ク

官制ヲ整革ス

ス○歲入出決算ヲ報告ス。明治元年ヨリ八年ニ至ル。其共計ハ歲入四億零六百三十五萬零八百五十三圓ニシテ。歲出ハ三億五千九百四十四萬六千六百八十二圓ナリ○是歲。虎列刺病大ニ行ハレ。患者十五萬餘。死者八萬九千餘人。乃豫防規則ヲ設ケテ之ヲ救フ○十三年。二月。地方官會議ヲ設ク。元老院副議長河野敏謙議長タリ。東京府知事松田道之。京都府知事植村正直。山形縣令三島通庸。熊本縣令富岡敬明。幹事タリ。天皇屢之ニ臨ム○三月。官制ヲ整革シ。太政官ヲ令チテ。法制

備荒儲蓄
法ヲ令ス

天皇巡幸
ニ公儲セシム

刑法治罪
法ヲ頒ツ

會計軍務内務司法外務六部ト為レ。參議ヲ以テ
部長ニ充ツ。○四月。備荒儲蓄法ヲ令ス。官ノ支出
額ヲ每歲百二十萬圓ト為シ。三十萬圓ハ大藏卿
之ヲ管シ。九十萬圓ハ各地方ニ頒チ。民ヲシテ別
ニ巡幸ス。文部卿河野敏謙先發シ。二品貞愛親王
太政大臣三條實美參議山田顯義等從フ。車駕過
クル所。民ノ疾苦ヲ問ヒ。忠孝ヲ賞シ。節義ヲ表ス
ル。皆北巡ノ時ノ如シ。月ヲ踰エテ宮ニ還ル。○七
月。刑法治罪法ヲ頒ツ。○八月。朝鮮ノ修信使金宏

教育令ヲ
改正ス

總論

集等來ル。○十一月。府縣會ニ常置委員ヲ置ク。○
十二月。教育令ヲ改正ス。是ヨリ此學制ヲ布キ。尋
キテ教育令ヲ發シ。以テ教化ノ普及ヲ謀ル。是ニ
至リ。又之ヲ改正ス。文教益興ル。
川島楳坪曰。神代ノ事。悠遠玄奧。測リ知ル可カラ
ス。蓋運草昧ニ屬シ。聖化獨西方ニ被リ。東國未。主
澤ニ露ハス。神武ニ至リ。舟楫ヲ備ヘ。糧食ヲ蓄ヘ。
進ミテ中洲ニ入リ。強梗ヲ芟除シ。醜類ヲ殄滅シ。
遂ニ都ヲ橿原ニ奠メ。國造縣主ヲ置キ。萬世不拔
ノ業ヲ定ム。綏靖不軌ヲ誅シ。天位ヲ正ス。安寧ヨ

リ開化ニ至ル。政令簡易。垂拱シテ治マル。崇神神
祇ヲ敬ヒ。不庭ヲ征シ。庶績咸熙マル。垂仁土偶ヲ
以テ殉ニ代ヘ。溝洫ヲ開キ。灌溉ニ便ス。其仁深シ。
景行親。西陲ヲ征シ。日本武ヲシテ東夷ヲ伐タシ
メ。以テ廟畧ヲ廣ム。成務國縣ヲ分チ。首長ヲ置キ。
治國ノ規模備ハル。仲哀熊襲ヲ討チ。中道ニシテ
崩ス。神后兵戎ヲ總ヘ。熊襲ヲ定メ。三韓ヲ征シ。國
威ヲ海外ニ揚ク。應神ノ朝。經書初メテ來リ。文教
爰ニ興ル。仁德恭儉。租ヲ除ク三年。炊烟鬱起シ。歌
頌乃傳フ。安康山宮ノ變。雄畧果斷。事即平ク。清寧

嗣ナシ。皇胤ヲ民間ニ舉ク。顯宗仁賢。揖讓相承ケ。
寬仁下ヲ治メ。海内殷阜ナリ。武烈崩シ。繼體入リ
嗣ク。欽明ノ時。佛法東漸。敏達之ヲ禁シ。用明之ヲ
信ス。馬子惑溺。燭ヲ煽キ。國ヲ蠹シ。初守屋ヲ殺シ。
遂ニ崇峻ヲ弑ス。厩戸比黨之ヲ過去ノ報ニ誣ス。
何ノ言ノ悖レルヤ。孝德庶政ヲ振興シ。八省ヲ建
テ。百官ヲ置ク。天智鎌足ヲ用中。大姦ヲ誅シ。社稷
ヲ定メ。登極ノ日。禮ヲ制シ。儀ヲ肇ム。文物粲然。得
テ述フヘシ。唯貽謀ノ臧カラサル。猛虎ヲ山ニ放
ツ。坏土未乾カス。壬申ノ變アリ。弘文亂ニ崩シ。鴻

業暢ヒス。史臣ノ歎スル所ナリ。天武立チ。逆ニ取
リ順ニ守リ。能ク天智ノ績ヲ弘ム。文武律令ヲ修
メ。大寶典ヲ垂ル。元明元正坤儀ヲ正シ。區宇ニ臨
ミ。女中堯舜ノ稱。溢美ニアラス。聖武佛ヲ信シ。三
寶奴ト稱ス。孝讓縱恣。嗣皇ヲ廢シテ。再祚ヲ踐ム。
奸僧寵ヲ恃ミ。神器ヲ覬覦ス。清麻呂ノ忠微カリ
セハ。事或ハ知ル可カラス。光仁跡ヲ韜ミ。時ヲ得
テ龍飛ス。天地清明。姦慝屏息ス。桓武ノ朝。賢將田
村アリ。委任成ルヲ責メ。蝦夷ヲ平定ス。乃龜茲ニ
問ヒ。都ヲ平安ニ奠ム。嵯峨淳和兄弟相及ホシ。善

ク繼キ善ク述フ。華萼ノ美。千古光輝アリ。仁明恆
貞ヲ廢シ。文德ヲ立テ。文德長子ヲ置キテ。幼主ヲ
立テ。以テ攝政ノ初ヲ成ス。清和ノ抖擻勤苦。皆藤
氏ノ權ヲ養フ所以ナリ。基經暗ヲ廢シ。明ヲ立ツ。
史ニ貶辭ナシ。光孝恭儉。庶政ニ勤ム。宇多之ニ紹
キ。權ヲ攬リ。綱ヲ振フ。道真才德。負荷ニ堪ヘ。明主
ノ舉ニ負カス。奈何セン。醍醐讒ヲ信シ。忠ヲ謫シ。
千歲憾ヲ遺ス。惟材能朝ニ列シ。世延喜ノ治ヲ稱
ス。朱雀ノ朝。封豕長蛇。東西亂ヲ煽ク。亦相門ノ人
材ヲ屈スルニ由ル。村上政ニ勤メ。朝野肅然タリ。

古今通纂卷四
五十一
天曆ノ治。延喜ニ亞クヘシ。冷泉圓融華山ノ朝。相
門益横ニシテ。王室日ニ弱シ。道兼ノ天子ヲ騙ス
ル。之ヲ書スレハ簡策ヲ汚ス。後冷泉ノ時群盜野
ニ満チ。肉食憂ヘス。一ニ武臣ニ委ス。前九後三朝
廷與リ知ラサル如シ。大權ノ武門ニ移ル。既ニ此
ニ兆ス。卓タル後三條能ク乾綱ヲ統フ。克己勵精。
權臣跡ヲ歛ム。惜哉。寶祚日淺ク。中道崩殂ス。白河
愛憎意ニ任セ。奢侈極ナシ。院宣四十年。上下凋弊
シ。遂ニ天下ノ武夫ヲシテ。復朝憲ヲ畏レサラシ
ム。鳥羽私愛ニ溺レ。崇徳ヲ廢シ。大寶ヲ以テ三歲

ノ近衛ニ附ス。保元ノ亂。父子相賊シ。兄弟相讎シ。
綱常地ニ墜ツ。瘡痍未愈エス。再平治ノ亂アリ。義
朝僵レテ。清盛獨擅ナリ。法皇ヲ幽シ上皇ヲ脅シ。
罪惡貫盈ス。重盛ノ賢ナル能ク之ヲ救フナシ。賴
朝父祖ノ遺業ニ席リ。伊豆ニ崛起シ。平氏ヲ討ス。
壇浦ノ鏖戰。慘モ亦甚シ。後鳥羽既ニ立チテ。政院
中ニ出ツ。征夷府ヲ開キ。大權鎌倉ニ歸ス。守護ヲ
置キ。地頭ヲ創メ。國司ノ權。日ニ削リ月ニ消ス。誰
カ是謀ヲ為ス。帷幄廣元アリ。豆ヲ煮箕ヲ燃キ。禍
蕭牆ニ伏ス。牝雞晨ニ唱ヘテ。源家亦索タリ。義時

傑黠陪臣國命ヲ執リ。三帝ヲ遷シ。太子ヲ廢シ。承
久ノ變。臣子ノ言フニ忍ヒサル者アリ。泰時時賴
勤儉民ヲ撫ス。能ク九葉ノ久シキヲ保ツ所以ナ
リ。後宇多ノ朝。蒙古來寇シ。緣釐海ヲ蔽フ。時宗一
戰之ヲ殲ス。其功偉ナリ。以テ祖先ノ罪惡ヲ償フ
ニ足ル。高時恃慢。天怒リ人怨ム。後醍醐之ヲ討タ
ント欲シ。兵謀機ヲ失シ。乘輿播遷ス。至誠神ニ通
シ。夢ニ忠良ヲ錫フ。義旗雲合シテ。狡童誅ニ伏ス。
天未禍ヲ悔イス。帝心惑フ。内寵封ヲ得。功臣職ヲ
失ヒ。天下囂然。復武門ノ治ヲ思フ。尊氏兇逆。釁ニ

乘シ闕ヲ犯ス。皇胤ヲ擁立シ。反跡ヲ掩フ。正成義
貞前後戰歿。京師守ラス。復芳山ニ幸ス。南風競ハ
ス。啼鳥憑アラス。爰一後龜山ニ至リ。神器ヲ後小
松ニ傳フ。父子禮成リ。南北始メテ合ス。義滿驕僭。
膝ヲ朱明ニ屈シ。國體ヲ穢ス。義教袈裟ヲ脱シテ。
軍職ヲ襲キ。矜驕自得。其下ノ弑スル所一爲ル。後
花園ノ朝。義政橫斂下ヲ虐ケ。戸耗シ田蕪ス。應仁
以降。兵禍熄マス。海内分崩シテ。統一スル所ナレ。
早雲劔ニ仗リ。關東ヲ併セ。元就賊ヲ討チテ。山陰
山陽ヲ定ム。信玄甲斐ニ據リ。謙信越後ニ起リ。龍

驥虎視。互ニ雄ヲ争フ。信長尾張ニ發シ。諸雄ニ先
チ。畿甸ヲ定メ。天子ヲ挾ミ。諸侯ニ令ス。霸業將ニ
就ラントシテ。忽焉弒ニ遭フ。麾下秀吉アリ。才畧
世ヲ蓋フ。逆賊ヲ誅除シ。群雄ヲ威服シ。海内蕩平
ス。餘勇ヲ賈ヒテ。海外ヲ征シ。雞林八道。披靡奔竄
ス。遂ニ勢ニ乘シテ。燕京ヲ席卷セント欲ス。功半
ナラスシテ。將星墜チ。遺孤孱弱ニシテ。威柄既ニ
分ル。家康國富ミ兵強シ。關原ノ一戰。霸業ヲ定メ。
浪華ノ再戰。豐臣ヲ滅シ。王室ヲ翼戴シ。諸侯ヲ封
建シ。以テ驩虞ノ治ヲ創ム。後水尾垂拱。民ト休息

ス。秀忠家光能ク強藩ヲ制服ス。後光明英邁。志恢
復ヲ存ス。寶祚永カラス。志士歎惜ス。吉宗勤儉。下
ヲ率キ。賢ヲ擧ケ治ヲ圖リ。弊ヲ除キ利ヲ興シ。幕
府中興ノ主ト稱ス。家齊初政。奢侈ヲ禁シ。武備ヲ
飾ヘ。一時寛政ノ治ヲ稱ス。末年驕奢。賢宰去リテ。
幕政荒ル。光格學ヲ好ミ民ヲ恤フ。草莽人アリ。闕
ニ伏シテ哭泣ス。仁孝孝明ノ際。洋船嘗至シ。海内
騷然。尊攘ノ說大ニ起ル。家慶家定相尋キテ歿シ。
宰臣事ヲ用キ。莽ニ黨獄ヲ起ス。家茂兵ヲ將キ西
伐シ。功ナクシテ和ヲ講ス。幕府ノ命令復諸侯ニ

行ハレス。慶喜時勢ヲ察シ。政權ヲ奉還ス。今上龍
興。賢ヲ使ヒ能ニ任シ。藩服ヲ廢シテ。府縣ヲ置キ。
保平以還式微ノ運ヲ轉シ。一旦之ヲ邇隆ノ古ニ
復ス。盛徳大業。前古比ナシ。於戲。我瑞穂國。列聖相
承クル。茲ニ二千五百有餘年。寶祚ノ隆ナル。天壤
ト窮ナシ。皇祖ノ遺訓益信ナリ。豈盛ナラスヤ。

校古今紀要卷四終

明治十一年十二月九日版權所有
同十四年六月十一日校刻
同十四年六月十一日分板
分板出版人

埼玉縣原本

川島 煤坪

武藏國北足利郡浦和野香地寄賣

埼玉縣平民

長島 為一郎

武藏國鴻巣縣
百二十五番地

東京府平民

吉川 半七

東京府傳馬町壹丁目
十二番地

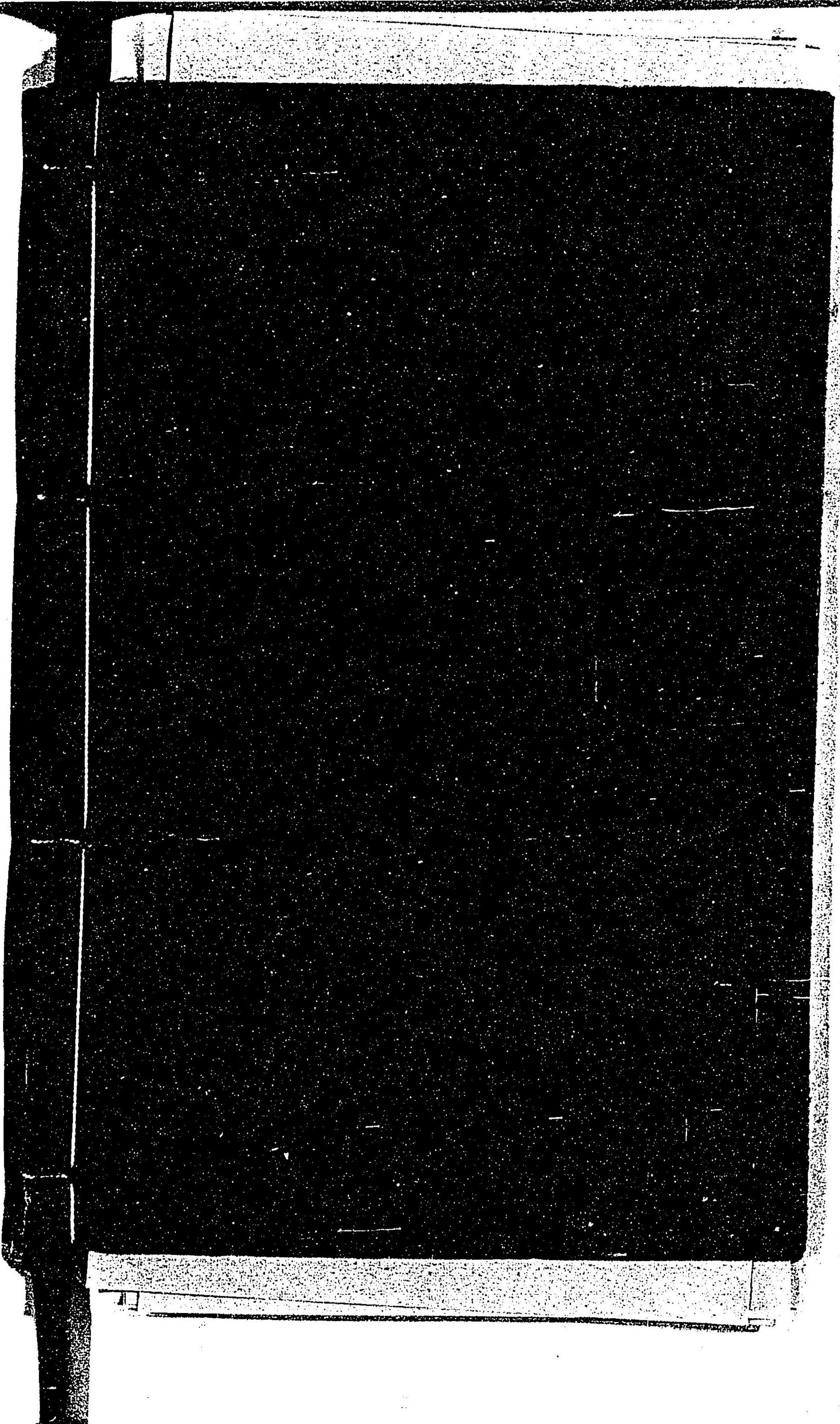
大坂府平民

松村 九兵衛

大坂南區心齋橋筋壹丁目
四十三番地



製本
發兌



210. /
Ka939k